

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|-------------|------------|
| 研究 | 2016-1024-08 | ライフサイエンス | CHRNA7断片を用いたアミロイドβ検出法 | 主任研究員 理工学術院 大学院先進理工学研究科 | ◆ CHRNA7のA8結合部位(約50アミノ酸)を同定◆ 精製したGST-CHRNA7断片を用いたA8検出法の検討◆ 膜に吸着したCHRNA7断片に対するA8の結合性を確認 | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-07 | ライフサイエンス | 新規脳ホルモンGnIHによる思春期早発症と生殖機能障害の新規治療法の開発 | 教授 教育・総合科学学術院 教育学部 | ◆ 生殖機能を抑制する新規脳ホルモン(GnIH)を発見(図1)◆ 生殖機能を抑制するGnIH/GNIH作用の分子機構の解明 - GnIH/GNIHの機能低下が導く中枢性思春期早発症(図2) - GnIH/GNIHの機能亢進が導く中枢性生殖機能障害(図3) | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-06 | ライフサイエンス | コラーゲン様構造を有する重合ペプチド及びゲル | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ◆ 化学合成した3重らせんをSS結合で重合させたマテリアル(図1)◆ ハイドロゲルや透明なフィルム状などの形状に加工が可能(図2)◆ コラーゲン上の機能配列を導入して細胞接着などを制御できる(図3)◆ ゲルの硬さを変化させることによって細胞の振る舞いを制御できる(図4) | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-03 | ライフサイエンス | 紙とマイクロファイバーの重層化基材を用いた自律駆動型灌流培養システム | 准教授 理工学術院 先進理工学部 | ◆ 細胞接着性に優れるゼラチンを材料に、紙の上にエレクトロスピニングで紡糸したマイクロファイバーを培養層に使用(図1)◆ 紙の毛細管現象とサイフォン原理により自律的に培養液を灌流させる(図2)。培養液面の高低差で流量制御可能 | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-02 | ライフサイエンス | 創薬・診断のためのオンチップ臓器モデル技術 | 安田 賢二 教授 理工学術院 先進理工学部 | ◆ 細胞精製・3次元細胞ネットワーク配置・非侵襲1細胞計測技術を組み合わせたオンチップ臓器モデル技術は従来の分子生物学的計測手法では計測できなかった細胞集団のダイナミクス解析を可能にした。 | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-01 | ライフサイエンス | 生体組織の空間オミクス解析を可能にする微小組織採取システム | 非常勤講師 研究院(研究機関) | ◆ 微小組織を高速・自動的に採取するシステムを開発◆ 顕微鏡像から指定した組織領域を連続的に採取◆ 組織片はプレートに回収され、様々な解析に利用可能 | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-0614-02 | ライフサイエンス | 顎顔面マッサージロボット | 准教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 顎関節症等の疾患に有効な顎顔面マッサージを行うロボットの設計ならびに制御に関する技術。この技術を用いることで、熟練した施術者が行うような力強さとしなやかさを兼ね備えたマッサージが可能。 | | 2016/07/14 |
| 特許 | 1808 | ライフサイエンス | 皮膚表面pHの測定法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ■動物(ヒト、イヌ、ネコ、サルなど)の皮膚表面のpHを測定する方法。 | 2017-203731 | 2016/06/06 |
| 特許 | 1700 | ライフサイエンス | 高血糖によるエピゲノム異常の抑制剤 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ヒストンのO-GlcNAc修飾を選択的に定量する方法により高血糖が引起すヒストンO-GlcNAc修飾の異常増加を抑制する化合物を見出し、そのヒストンO-GlcNAc修飾の異常増加の抑制方法及びそのための組成物、修飾の異常増加が関与する疾病に対する予防・治療のための組成物、並びに健康の維持・増進のための方法及び組成物の提供を可能にした。 | | 2015/10/28 |
| 研究 | 2015-1023-05 | ライフサイエンス | 膜分離装置を用いたタンパク質の結晶化手法 | 講師 理工学術院 先進理工学部 | ・限外濾過膜を用いることでタンパク質溶液を濃縮・圧力制御により濃縮速度を任意に制御・タンパク質結晶を容易に分離回収が可能 | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1023-04 | ライフサイエンス | 食肉の加熱処理評価法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 加熱処理によって起こるタンパク質の変性を、ラマン分光分析法を用いて観測し、試料の加熱処理状態を判定する。 | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1023-03 | ライフサイエンス | 新規の抗菌性ペプチド | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | 3重らせん構造で、かつ、N末付近にArgクラスター、C末にジスルフィド架橋を有する新規の抗菌活性ペプチド | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1023-01 | ライフサイエンス | 再構成クロマチンを基質とした相同組換え反応解析系 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ・RAD51およびDMC1依存的な相同組換え反応を評価するin vitro解析系・クロマチン基質を試験管内で再構成・クロマチンを基質としたin vitro相同組換え解析系の確立 | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1022-04 | ライフサイエンス | 高血糖によるエピゲノム異常の抑制剤 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | 高血糖はエピゲノムの変化を起こすのだろうか? その場合、高血糖によるエピゲノム異常を抑制できる化合物は予防・治療を期待できる。 | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1022-03 | ライフサイエンス | 神経細胞分化促進剤 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ・ニューロン分化に特異的な促進または阻害活性を有する age ladine A誘導体シリーズ | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1022-02 | ライフサイエンス | 培養細胞を用いた高効率スクリーニング系 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ・培養細胞株に評価対象遺伝子をレトロウイルスにより導入した後、様々な培養環境(増殖因子の有無、培養基質等)における細胞の挙動を観察することにより、細胞増殖・細胞運動(遊走、浸潤)・癌化などのアッセイを行う。・従来大きな培養面積を必要としていたアッセイについて、96wellプレートを用いた条件最適化に成功した。 | | 2015/10/23 |
| 研究 | 2015-1022-01 | ライフサイエンス | 体内時計をターゲットにした機能性表示食品開発 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ・細胞評価系で、大規模スクリーニングを行う(fig.1)・振幅、位相、周期に効くものを選択・朝食用、夕食用の機能性食品成分のスクリーニング(fig2)・動物とヒトの時計遺伝子で振幅、位相、周期を評価する(fig.3) | | 2015/10/22 |
| 研究 | 2015-0303-02 | ライフサイエンス | 静的ストレッチングの評価手法 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・筋緊張の定量的評価・緊張緩和の発生を検出・簡易な押込み反力計測 | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2015-0303-01 | ライフサイエンス | ロボットによる乳がん診断・治療支援 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・触診のように体表からがんの位置や硬さを計測・圧迫プローブを用いて、治療針ががんを正確に穿孔 | | 2015/03/03 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|-------------------|---------------------------------------|---|--|------------|------------|
| 研究 | 2015-0302-01 | ライフサイエンス | 立脚期を対称化する歩行リハビリロボット | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・立脚期を対称化するロボット・リアルタイムに立脚期を提示 ・左右のベルトの速度差により立脚期を対称化 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-07 | ライフサイエンス | 焼灼支援システムの開発 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・ロボット技術を応用した正確な焼灼を目指した研究・術中での焼灼に関連する物理量のセンシング手法および推定手法の構築 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-06 | ライフサイエンス | 画像処理の内視鏡下手術応用 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・画像処理技術により従来不可能であった視野を実現・既存の医療機器の組み合わせによるシステム構築 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-05 | ライフサイエンス | 筋隆起位置変化に基づくロボット制御 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・新たな筋活動信号に基づくロボット制御技術開発・筋隆起位置の変化に基づいた動作量推定 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-04 | ライフサイエンス | つまずき予測検知システム及びつまずき防止システム | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・つまずきの予測検知・装着感の良い装着型デバイスの実現 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-03 | ライフサイエンス | 力覚を用いた方向提示デバイス | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・力覚を用いた方向提示・2個の偏心錘の遠心力を力覚として提示・任意の方向へ提示可能 | | 2015/03/02 |
| 研究 | 2015-0302-02 | ライフサイエンス | 理学療法士の手技を再現するロボット | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | ・理学療法士の手技を再現するロボット・手技の特性に基づいたモデルの構築・患者に応じた手技をロボットにより実現 | | 2015/03/02 |
| 特許 | 1324 | ライフサイエンス 情報通信 | 運動に対する内発的な動機付けを与え、継続的な運動を支援するシステム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 運動を行う使用者に様々な音が提示され、当該音の高低に合わせて使用者が運動を行う。すると、システムでは、音の高低に合った動きか否かを判定し、体の各部位に対して、経験的データから、動きの偏重に応じた重み付けをした上で、使用者に、動きの不足している部位のトレーニングを誘引する。 | 特許第598813号 | 2014/02/18 |
| 研究 | 2014-0122-08 | ライフサイエンス ナノ・材料 | 光学顕微鏡を用いた局所温度測定 | 非常勤講師 研究院(研究機関) 重点領域研究機構 | ・ポリマーナノ粒子型の蛍光ナノ温度計・ナノ粒子の直径は約100nm、位置決め精度は数nm、温度分解能は約0.3℃・カメラの速度に依存した高い時間分解能(数10ms~数10μs程度) | | 2014/01/31 |
| 特許 | 1125 | ライフサイエンス | 会話ロボット | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | グループの会話に参加して会話のみならずその場の雰囲気自然に溶け込める動作のできるロボットに関する技術。このロボットは、複数の人間が会話している輪の中に、話者に対する直接の聴者だけでなく、会話に関心を持っている第三の聴者として違和感なく加わることができる。そのために、ロボットの視線を話者に向けながら、体の向きを会話の輪に向けることにより自然な動きを実現している。高齢者の生活支援などへの応用が期待できる。 | 第5751610号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1117 | ライフサイエンス | JAK2 遺伝子の変異解析方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 生命医科学科 | 慢性骨髄増殖性疾患(MPD)に見られるJAK2遺伝子変異の測定方法として蛍光プローブを用いる。高感度、簡便、低コスト、ハイスループットに定量可能。 医薬品のスクリーニング方法などへの応用も期待される。 | 第5787304号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1069 | ライフサイエンス | 電界効果トランジスタ、その製造方法及びバイオセンサ | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 電解質溶液中で動作する電界効果トランジスタ型のセンサにおいて、ソース・ドレイン電極をTiで形成し、かつ電解液に短絡しないよう前記Ti電極にTiO2膜を形成する。 | 第5366215号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 961 | ライフサイエンス | 三次元シースフロー形成構造及び微粒子集束方法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | マイクロ流体デバイスを用いたセル/オルガネラソータ開発をシースフロー構成で行う。従来技術よりもデバイスの作成工程が少なく、加工の高い再現性と量産性が実現可能となる。 | 第5700189号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 939 | ライフサイエンス | 模擬狭窄血管及びその製造方法 | 教授 理工学術院 大学院先進理工学研究科 共同先端生命医科学専攻 | 血管が石灰化したことによる狭窄病変状態をモデル化した人工血管およびその製造方法に関する発明。 シリコンに炭酸カルシウム粉末を混ぜてモールドの狭窄部に塗布し、ポリエチレン樹脂製チューブで被覆した後、チューブモデル全体をシリコンで塗布することによって、実際のヒトの狭窄血管に近い弾性を得られる。 | 第5136993号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 935 | ライフサイエンス | バイオセンシング方法及び固定化方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 有機単分子膜を形成したディスク基板に生体物質を結合させ、磁気あるいは光磁気ヘッドによりスキャンして二次元検出を行う。 種々のサンプルを簡便に同時測定可能。 | 第4911639号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 902 | ライフサイエンス | 対話活性化システム及び対話活性化ロボット | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 進行役が進行を司る会話・議論・ゲーム等において、進行役以外の参加者がより楽しめる状態を作る。 ゲームの進行状況の検出器、ゲーム参加者の活性度の検出器、ゲームのトピック毎のエピソード知識のいずれかを持つシステム(対話活性化ロボット)を、仮想的な参加者としてゲームに参加させる。個別ゲーム、オンラインゲーム等の領域で適応可能。 | 第5294315号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 815 | ライフサイエンス | 穿刺プランニング支援装置及びそのプログラム、並びに刺入条件判定方法 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 穿刺治療において、生体組織表面に対する針の刺入位置や刺入角度等の刺入条件の良否をシミュレーションにより総合的に判定し「期待値」として求めることにより、さまざまな穿刺状態で精度の高い穿刺軌道のプランニングを行うことが可能となる。 | 第5105330号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 814 | ライフサイエンス | 穿刺焼灼プランニング支援装置及びそのプログラム、並びに穿刺焼灼条件判定方法 | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 病巣部位の変化の程度やその周囲の温度分布状態の変化を測定することにより、穿刺療法における最適な電極針の刺入条件や針への供給電力量を決定する。本発明により、病巣部位の周囲組織に影響を与えることなく、ターゲットとなる病巣部位を確実に壊死させることが可能となり、穿刺療法の精度向上に貢献する。 | 第5157024号 | 2013/12/25 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------|---|--------------------------------------|--|-----------|------------|
| 特許 | 810 | ライフサイエンス | 磁気微粒子包含細胞及びその製造方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本発明は、免疫細胞療法などの医学的治療、磁気共鳴画像診断(MRI)などの医療診断などに用いることができる磁気微粒子包含細胞に関するものである。本発明により、小粒径の磁気微粒子が分散性よく内包された磁気微粒子包含細胞を効率よく製造することができる。本発明の磁気微粒子包含細胞は、磁気誘導を利用した温熱療法等にも応用可能である。 | 第5476620号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 659 | ライフサイエンス | シミュレーション装置、制御装置及びこれらを用いた手術用ロボットの制御システム、並びにシミュレーション装置用のプログラム | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 本発明は低侵襲手術を行う手術支援ロボットの動作制御に関するものである。マニピュレーターがターゲットとなる臓器等の生体組織にアプローチする際、ターゲットに加わる力を把握しながらマニピュレーターの動作を制御する。血管や神経等の特定部位に過負荷が掛かることを回避し、ロボット手術中の特定部位の不意な損傷を防止することができる。 | 第4636618号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 617 | ライフサイエンス | 好中球機能検査システムおよび好中球機能検査方法 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 走化性細胞・生物を分離可能なハイドロゲルと化学発光法を用いた好中球機能検査システムを提案している。本システムは、全血を用いて、簡便に、寿命の短い好中球の機能(遊走能・活性酸素産生能)を定量的に測定可能である。現在、リコピンやペクチンなどに対する好中球の抗酸化力測定等を検討している。 | 第4869020号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 487 | ライフサイエンス | 穿刺制御装置、穿刺ロボット及び穿刺制御用プログラム | 教授(当時) 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 本発明は、ロボットを使って生体組織に穿刺を行う際に用いられる穿刺制御装置、穿刺ロボット及び穿刺制御用プログラムに関するものである。本発明により、当該生体組織の特性を考慮しながら針の動作を予測してその進路を決定することができる。このため、医師の経験と勤に全て頼らなくても穿刺のターゲットに針を確実に到達させることが可能となる。 | 第4390146号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 452 | ライフサイエンス | 血液シミュレータ及び流れ変換装置 | 教授 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 大動脈流と流れ状態が異なる冠動脈流を正確に再現でき、かつ、当該流れの状態で適用される人工臓器、医療機器、手術法等に対する各種評価を正確に行うことのできるシミュレーション装置。この装置により、動脈硬化等の治療に用いるステント(血管拡張具)の性能評価や冠動脈の吻合に関する評価等の各種評価を行う際に、人体実験や動物実験を避けることが可能になる。 | 第4587776号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 390 | ライフサイエンス | 補聴処理方法及びそれを用いた補聴器 | 理工学術院 国際情報通信研究センター | 本発明は、難聴者の聴神経興奮パターンが、健聴者の聴神経パターンと同一になるように入力音声信号を補正して音声に変換することで、周波数選択性の劣化が補償され、違和感なく健聴者と同じような感覚で環境音を聴取することができる技術である。雑音下での文章理解度が改善され、快適な装用が可能のため、補聴器の普及に寄与する。 | 第4127680号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 173 | ライフサイエンス | 流体循環装置 | 教授 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 複数個(3~4個)の拍動流ポンプと1つの大動脈弾性特性を模倣したコンプライアンスチューブで構成される完全大気非接触型の循環回路。 | 第4165691号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 130 | ライフサイエンス | マッサージロボット及びその制御プログラム並びに体部位特定用ロボット | 教授 理工学術院 | 本発明は、マッサージの対象部位の状態を正確に把握して、施術者が行うマッサージに近いマッサージを自動的に行うことのできるロボットに関する。本ロボットでは、顔面内の唾液腺等のマッサージ部位を自動的に特定して、医師等の施術者が行う顔面マッサージに近い動きを実現することができる。 | 第5097907号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 56 | ライフサイエンス | 表在性化学種測定方法および測定装置 | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工学科 | 生体表面に光を照射し、その反射光のスペクトル分析を行うことにより、生体表層の血流状態などを測定する方法とその測定装置に関する技術である。本発明は、様々な病変に対応でき、さらに、病変の検出誤りが少なくなるような皮膚表面の観察データの処理方法とフィルターを不要とする簡単な構造の測定装置を提供する。 | 第4721144号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 8 | ライフサイエンス | 人工冠動脈及び冠動脈ステント性能評価シミュレータ | 教授 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 生体機能を模した冠循環シミュレータであり、安全かつ効果的な冠動脈ステント等の冠動脈機能確保物の評価や検査用に使用する。 | 第4166905号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2013-1022-06 | ライフサイエンス | クエン酸濃度の迅速測定法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ・従来法(15分程)と異なり、数秒で測定可能・有機溶媒や高価な酵素を用いず、検出感度が高い | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1022-05 | ライフサイエンス | 機能性ペプチドの合成法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ・非リボソーム型ペプチド合成酵素(NRPS)由来のモジュールやドメインを利用したジペプチド合成・特定アミノ酸に限定されないジペプチド合成技術 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1022-04 | ライフサイエンス | 海洋天然化合物 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ・海洋無脊椎動物は低分子化合物の宝庫・エビジェネティクス研究のツール | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1022-03 | ライフサイエンス | 生体内常在性物質による抗がん作用 | 教授(当時) 教育・総合科学学術院 | ・がん細胞に対して選択的に死滅・増殖抑制させる化合物Xを発見した・化合物Xは生体内に常在する物質であるため副作用がない | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1022-01 | ライフサイエンス | コラーゲンを用いる新規DDS | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ・ストレス性と高尿排泄性を持つ今までに無い薬物担体・抗原性が低く安定 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1021-03 | ライフサイエンス | 人工赤血球の新しい臨床応用 | 客員上級研究員(当時) 研究院(研究機関) 重点領域研究機構 | ・人工赤血球(Hb小胞体)の製造法を確立・安全性・有効性の膨大なデータを保有・カプセル化により分子状Hbの毒性を回避 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1021-02 | ライフサイエンス | 諸物性がデザインできる“テラーメイド輸送体によるDDS” | 非常勤講師 | ・創薬とDrug Delivery Systems(DDS)を融合させるプラットフォーム・ナノ輸送体の物性デザインにより薬物動態を制御(独自の機能性脂質ライブラリーを使用)・新薬開発の加速、付加価値DDS製剤の創出 | | 2013/10/25 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------|--|-------------------------------------|---|-------|------------|
| 研究 | 2013-1021-01 | ライフサイエンス | 高感度DOI-PET検出器 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用物理学科 | ・画像診断用PET装置の解像度向上・ガンマ線の吸収位置「3次元」計測 ・磁場耐性の新しい半導体光センサー | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1017-03 | ライフサイエンス | 非侵襲的内出血抽出アルゴリズム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | ・救急医療における内出血検出（FAST）の感度向上・超音波画像処理に基づき血液貯留の疑義箇所を抽出する診断支援システムの構築 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1017-02 | ライフサイエンス | モバイル端末操作型エコー遠隔診断ロボット | 教授 理工学術院 創造理工学部 | ・遠隔地医師によるモバイル端末での操作で、救急搬送中の外傷患者の内出血の有無を診断可能・開発した操作アプリ・ロボット・通信技術を妊婦健診に活用することで新たなビジネスプランを創出 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-1017-01 | ライフサイエンス | 非侵襲メラノーマ診断支援システム | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工学科 | ・非侵襲的方法によるメラノーマの早期発見・色素分子レベルの情報に基づく客観的かつ定量的な診断支援 | | 2013/10/25 |
| 研究 | 2013-0130-18 | ライフサイエンス | 下肢運動機能の解析に基づいた設備や装具の開発 | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | 視覚障がい者誘導用ブロックや傾いた障がい物などが、健常者・高齢者・けがをした人たちの歩行に与える影響の分析（歩行における負担やつまずく危険の検討）。歩行における足部の構造（土踏まずなど）や力学的特性の解明床材の特性に着目した視覚障がい者への情報提供手法の評価と提案 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-17 | ライフサイエンス | 皮膚感覚特性を利用したインターフェース | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | 視覚障がい者への情報提示設計接触面積の違い、層構造や硬さ（ヤング率）、滑りやすさ、など様々な触覚センシングの特性分析と、それを活用したデバイスの提案振動刺激がもたらす上腕伸展錯覚の分析 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-16 | ライフサイエンス | 注意訓練による気分障害の改善手法 | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | うつ病によく見られる「反芻（はんすう）思考＝過ぎたことを何度も思い出して苦しむこと」に着目し、注意訓練により反芻を減らす神経行動療法の開発を行っている。fMRIや光トポグラフィを利用して関連する脳部位の変化を把握することで、より患者の症状にあった治療を提供する。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-15 | ライフサイエンス | 脳活動測定による快適さ評価 | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | 光トポグラフィ（NIRS）による脳血流リアルタイム計測を利用することで、快適さや感情状態など主観的な状態の数値指標を提供する。より効果的な刺激条件や設計などを探索する助けとなる。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-14 | ライフサイエンス | 動作エラーと運動学習の脳内処理機構 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 前帯状皮質（anterior cingulate cortex）の活動をエラー関連陰性電位から測定。注意や報酬に伴う学習の進行過程について、脳波や脳イメージング、TMS（経頭蓋磁気刺激法）、アイトラッカー（眼球運動計測）等を用いて分析する。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-13 | ライフサイエンス | スポーツと睡眠 | 教授（当時） スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 身体運動が夜間睡眠に与える影響について。睡眠を改善するためにどのような運動が適切か。うつ病の運動療法の可能性。気分の改善に運動が治療的な効果を持っているかについての研究。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-12 | ライフサイエンス | 筋収縮を伴った虚血の一過的・慢性的効果のメカニズムとその応用 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 中長期的に虚血下で筋収縮を繰り返す（加圧トレーニング）と、①運動強度が極端に低くとも高強度の場合に匹敵する筋肥大を伴った筋力増大と、②血管内皮機能改善などを引き起こす。さらに、筋収縮を伴った虚血は、③MIの神経活動を短時間に活性化させるので、運動学習及びリハビリテーションの為の可塑的な変化を引き起こす、非侵襲的な方策としても有用である。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-11 | ライフサイエンス | スポーツスキルの解析 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | バッティングやピッチングなどにおいて、フルボディモーションキャプチャやフォースプレート等を用いた身体的パフォーマンス、バットスイングやボール回転、手指運動や視覚認知運動の精密測定など多様な解析手法から、軌跡の再現性等に着目したスキル評価を行っている。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-10 | ライフサイエンス | ボディ・イメージ研究に基づくコーチング技術、それらをいかしたスポーツ推進活動 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 実際の動きを伴わずに動作を想起する「ボディ・イメージ」中の脳活動や、自分の理想とする運動と実際の動きのギャップを計測・分析している。具体的には宙返りやけ上がり動作、皮膚感覚を伴う運動、道具を用いた動作などについて、非侵襲脳画像やバイオメカニクス測定を行っている。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-09 | ライフサイエンス | 腰痛を中心とした障害の病態解明と予防方法（運動療法）提唱 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 腰部をはじめとした脊椎とその隣接部位（股関節・鼠径部・肩甲帯）の受傷メカニズムの解明、診断・治療・リハビリ・予防に関わる知見。主な競技対象は水泳競技（競泳、水球、飛び込み、シンクロ等）。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-08 | ライフサイエンス | スポーツ医学的見地を活かしたスポーツ装具の評価 | 教授（当時） スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | シネラジオグラフィーを用いた骨・関節の動態観察による解析、スポーツ医学的見地を活かした評価 主な競技対象は、サッカー（ジュニア・女子）・柔道・バスケットボール・ラグビー・ゴルフなど | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-07 | ライフサイエンス | 膝関節を中心とした外傷予防とリハビリテーション | 教授（当時） スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 膝関節（靭帯、大腿屈筋など）外傷の受傷メカニズムの解明、診断・治療・リハビリ・予防に関わる知見 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-06 | ライフサイエンス | ヒト声帯モデルに基づく音声合成技術 | 教授 スポーツ科学学術院 スポーツ科学部 | 発話において音声が生産されるメカニズムの力学的・音響的解析聴覚・触覚から発話系へのフィードバックの分析、感情的な音声・病的音声の声質生成機構の解明音声情報生成技術の開発、発話獲得メカニズムの分析 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-04 | ライフサイエンス | DNA損傷応答傷害と早老症 | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | 早老症の原因遺伝子として同定されている、DNAの複製・修復・組み換えに関与する複数のタンパク質の機能解析を通じて、DNA障害性ストレスによるゲノムの恒常性維持機構の破綻と老化促進について研究を行っている。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-03 | ライフサイエンス | アンチエイジング物質のスクリーニング技術 | 教授 人間科学学術院 人間科学部 | カロリー制限による抗老化作用と同等の効果をもたらす物質を探索・評価するための、スクリーニング培養細胞およびトランスジェニックマウスの系を確立している。長寿関連転写因子結合配列（DFCR-RE; Dwarfism and Calorie Restriction-Response Element）をレポーター遺伝子（分泌型アルカリフォスファターゼ）の上流に組み込み、この配列に結合する転写因子の活性化を間接的に測定する。また、本抗老化作用の代謝経路で働くニューロペプチドYに着目した解析も行っている。 | | 2013/01/30 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|---------------------|---|---|--|-------|------------|
| 研究 | 2012-0712-07 | ライフサイエンス | 電界効果トランジスタセンサ | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 半導体微細加工技術を用いて作製したトランジスタ型センシングデバイス。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0319-01 | ライフサイエンス | 教育利用を目指した片麻痺歩行の疑似体験装置の開発 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 片麻痺者が歩行する際の主観的な経験、たとえば「動かそうと思っても動かない」「(逆に)勝手に動いてしまう」などの運動と知覚とのずれに着目し、これらの感覚を健常者も非侵襲且つ安全に疑似体験できる手法を開発した。 | | 2012/03/19 |
| 研究 | 2011-1031-01 | ライフサイエンス ものづくり技術 | 認知神経リハビリのためのバイオフィードバック型知覚支援ロボットテクノロジー | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 片麻痺患者のリハビリを支援する知覚支援ロボットテクノロジー(RT)の開発ノウハウ及び臨床データの蓄積。麻痺足の接地状態を、健常側の腕や背中等に装着した圧力呈示ユニットで健常側に伝達する仕組みを案出。健常側を通じて感じ取った麻痺側の接地状態と、患者が抱えている間違っただけの身体イメージとを比較させ、身体感覚のズレに患者自ら気づかせる。RTで主体性を引き出すこの新たな仕掛けにより、脳の可塑性も促進し、自律的かつ効率的なリハビリが可能となる。 | | 2011/10/31 |
| 研究 | 2011-1028-01 | ライフサイエンス | 肝内代謝制御機構とその破綻による疾患発症メカニズムの解明 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 細胞内低酸素応答機構の中心分子である転写制御遺伝子Hypoxia inducible factor (HIF)-1についての知見を有する。肝実質細胞における低酸素応答の破綻がアルコール性および非アルコール性脂肪肝の発症や進展に係わっていることを見出した。特に、アルコール性脂肪肝発症メカニズムにHIF-1による脂肪酸代謝制御の破綻が関わっていることを明らかにしている。また、HIFアイソフォームのHIF-2の関与についても研究を展開している。 | | 2011/10/28 |
| 研究 | 2011-1027-01 | ライフサイエンス | 人工赤血球の製造法 | 客員上級研究員 (当時) 研究院(研究機関) 重点領域研究機構 | 酸素を結合するヘモグロビンを脂質膜で包んだ人工赤血球の製造方法。 (a)血液型が無い、(b)ウイルスなど感染源が排除されている、(c)室温で2年以上安定、(d)大量投与しても代謝系を経て分解排泄される、(e)血漿中に均一分散して、赤血球が到達できない末梢組織まで酸素を供給する、(f)出血性ショック蘇生液として、赤血球と同等の酸素運搬効果と安全性を有することなどが示されている。 | | 2011/10/27 |
| 研究 | 2011-0930-01 | ライフサイエンス | コラーゲンを基盤とした創薬 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | ・ コラーゲン様3重らせん構造を持つ超分子マテリアル ・ コラーゲン様3重らせんペプチドのライブラリー(約800種) ・ コラーゲン-生体高分子結合阻害化合物のスクリーニング手法:(384wellプレートのハイスループットスクリーニング系を確立) | | 2011/09/30 |
| 研究 | 2011-0915-04 | ライフサイエンス | サリドマイドの神経細胞に対する新たな薬理効果 | 主任研究員 理工学術院 大学院先進理工学研究科 | サリドマイドの鏡像異性体、誘導体、代謝産物が神経細胞においてそれぞれどのような作用機序で、薬理効果の違いをもたらすかについての分析。 | | 2011/09/15 |
| 研究 | 2011-0915-03 | ライフサイエンス | 微生物の新規分離培養法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 生命医科学科 | 環境中の有用微生物に対する新規のハイスループットin situ培養ツールおよび分離培養手法。土中や水中などに適用し、新規の菌を一度に多数獲得することが可能である。中空糸膜を介して外系との物質移動ができるため、自然環境のまま分離培養を行うことができる。(図参照) | | 2011/09/15 |
| 研究 | 2011-0915-02 | ライフサイエンス | 慢性骨髄増殖性疾患の診断方法 ~JAK2遺伝子変異の定量解析方法~ | 教授 理工学術院 先進理工学部 生命医科学科 | JAK2遺伝子変異の定量的な解析手法を有している。蛍光プローブを用いており、正確・迅速なcMPD診断が可能である。 | | 2011/09/15 |
| 研究 | 2011-0915-01 | ライフサイエンス | 細胞内分子動態解析 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ランダムスキャン方式2光子励起顕微鏡を用いて、細胞内分子の動態を測定できる。特に神経細胞のシナプス可塑性メカニズムに関わる、カルシウムイオン(Ca ²⁺)やリン酸化酵素、受容体などのタンパク質を対象としている。 | | 2011/09/15 |
| 研究 | 2011-0909-06 | ライフサイエンス ものづくり技術 | 心臓弁の無細胞化 | 教授 理工学術院 大学院先進理工学研究科 共同先端生命医科学専攻 | 異種生体弁の耐用年数を延ばす手段のひとつとして、化学処理をせずに組織無細胞化したブタ心臓弁を提供できる。独自に開発したマイクロ波照射及び生体内環境の再現(拍動による界面活性剤の流量・圧力制御)により、組織自体に傷を付けないため高い強度のまま無細胞化した組織を得られる。さらに、無細胞化したブタ心臓弁表面にヒト内皮細胞を増殖させる技術も持つため、より拒絶反応の少ない移植を実現できる。 | | 2011/09/09 |
| 研究 | 2011-0909-05 | ライフサイエンス ものづくり技術 | ステントの耐久性試験装置と評価方法 | 教授 理工学術院 大学院先進理工学研究科 共同先端生命医科学専攻 | ステントを挿入する部位に極めて近いストレス環境を実現できる試験装置を開発した。ねじりと伸長変形の複合負荷を加えられ、且つ、血管モデルの力学的特性も考慮できるシステムを構築したことにより、設計の異なる様々なステントの複合的変形追従性を統一基準で計測できる。 | | 2011/09/09 |
| 研究 | 2011-0906-06 | ライフサイエンス | 新規抗リーシュマニア剤 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | 抗リーシュマニア活性を有する新規化合物「クリスタキセニンA」 | | 2011/09/06 |
| 研究 | 2011-0906-05 | ライフサイエンス | 医薬品素材としての海洋天然化合物 ケミカルエビジェネティクス研究のツールとして | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | 海洋生物サンプル:海綿・腔腸・原索・棘皮・軟体動物など1500種類以上多様な採取地域:日本(南西諸島、九州沿岸、伊豆諸島、佐渡、三陸海岸、千島列島)、ミクロネシア、ヴェトナム 海洋天然化合物:新規および既知の海洋天然化合物ライブラリー-海洋無脊椎動物抽出物ライブラリーを対象とし、抗菌・抗カビ、各種がん細胞に対する増殖抑制、血管新生および各種酵素に対する阻害活性、細胞毒性、多剤耐性菌等のスクリーニングを行っている。これまでに顕著な生物活性を示す新規化合物を100種類以上見出している。 | | 2011/09/06 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------|--|-------------------------------------|--|---------------|------------|
| 研究 | 2011-0517-04 | ライフサイエンス | 非侵襲生体磁気計測を利用したマウスモデルとの比較によるヒトの脳疾患診断への応用 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 高感度磁気センサーであるSQUID（超電導量子干渉素子）は、頭蓋骨に阻害されることなく、神経伝達（脳活動）により生じる微弱な磁場（脳磁図）を計測できる。例えば、MRIで確認された脳腫瘍の周辺状態をSQUIDで計測することによって、より正確に病巣位置や病態を把握することができる。術前の執刀医向けの情報としてのみならず、術後の副作用についてのインフォームドコンセントにも活用可能である。 | | 2011/05/17 |
| 研究 | 2011-0517-03 | ライフサイエンス | 非侵襲生体磁気計測を利用したマウスモデルとの比較によるヒトの心疾患の診断への応用 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 生命科学的手法とSQUID※による測定を組み合わせることで、心疾患の早期発見に資する知見を提供できる。心疾患、たとえば心筋梗塞モデルマウス（ノックアウトマウス）を作り、その誕生から心筋梗塞発現、死亡までの心磁図をSQUIDで計測することで、心筋梗塞時に心磁図にどのような変化があるかを知ることができる。また、当該モデルマウスの解剖結果と照らし合わせることで、疾患状態と心磁図との相関図を作ることができる。 ※SQUID（超電導量子干渉素子）：高感度磁気センサー。神経伝達（脳活動）や心筋の動きにより生じる微弱な磁場（脳磁図・心磁図）を計測できる。 | | 2011/05/17 |
| 研究 | 2011-0517-02 | ライフサイエンス | 非侵襲生体磁気計測によるマウスモデルの刺激（ニオイ）脳応答の可視化 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 高感度磁気センサーであるSQUID（超電導量子干渉素子）では神経活動に伴う微小な磁界を測定でき（脳磁図）、頭蓋骨の影響も受けないため神経活動の活発な場所を逐次正確に追うことができる。例えば、ニオイ刺激受容因子欠損マウスモデル（ノックアウトマウス）と正常なマウスのニオイ刺激に対する脳磁図を比較することで、ニオイという化学刺激に対する脳神経活動を正確に可視化することができる。 | | 2011/05/17 |
| 研究 | 2011-0517-01 | ライフサイエンス | 非侵襲計測・解析による胎教効果の検証 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 高感度磁気センサーであるSQUID（超電導量子干渉素子）を用いて妊婦の心磁図を計測・解析すると、母親と胎児との相関性として胎児のリラックス度あるいはストレス度を知ることができる。これまで科学的な胎教効果は解明されていないため、どのような胎教行動が良いのかという指針づくりも可能である。 | | 2011/05/17 |
| 研究 | 2011-0427-03 | ライフサイエンス | ペプチドからヘキサペプチドまでを自由に合成する手法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 例えば、アミノ酸Aとアミノ酸Bを合成する際に、生体触媒（酵素）を用いた手法では、ある特定の構造のみを合成することができる（例えばAA、AB、BA、BBとの組み合わせが考えられる場合、ABのみを選択的に合成できる）。同様に、ペプチドも部位特異的に一つの構造を得ることができる。 | | 2011/04/27 |
| 研究 | 2011-0427-02 | ライフサイエンス | 2-ナフトエ酸の酵素水酸化による白色発光 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 2-ナフトエ酸にシトクロムP450（酵素）を利用して水酸基を導入することで、白色発光する化合物をワンステップで簡単に合成することができる。白色の他に、青色発光する化合物も合成できており、様々な発光色が得られる可能性がある。 | | 2011/04/27 |
| 研究 | 2011-0427-01 | ライフサイエンス | 高収率なヒドロキシアスパラギン酸の合成と抗腫瘍剤への応用 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本シーズでは、酵素を使った生体反応により、少ない工数でアスパラギン酸に位置特異的に水酸基を導入してヒドロキシアスパラギン酸をほぼ収率100%で合成することができる。 | | 2011/04/27 |
| 特許 | 1965 | 情報通信 | 口唇アニメーション生成装置及び口唇アニメーション生成方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | | | 2018/01/15 |
| 特許 | 1614 | 情報通信 | コンテンツ配信システム及び方法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 列車などの交通機関内で乗客の端末がビデオ映像などのコンテンツを要求したとき、映像の頭出しの部分を移動通信などの通信手段でリアルタイムにダウンロードし、残りの部分に対しては列車の次の到着駅のサーバに前もってソースからダウンロードし蓄積しておくことを指示する。次の駅に列車が到着したとき、ミリ波などの近距離高速無線通信技術などを利用して、列車内にダウンロードする。この手順をすべてICN（Information Centric Network／情報指向ネットワーク）技術によって実現する。 | 2017-117253 | 2017/07/17 |
| 特許 | 1851 | 情報通信 | デュアルクロックを用いた、H. 265のSAO（サンプル適応オフセット）の決定 | 教授 理工学術院 大学院情報生産システム研究科 | | | 2016/11/02 |
| 特許 | 1613 | 情報通信 | データ送信システム及び方法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 特開2016-158040 | 2016/11/01 |
| 特許 | 1611 | 情報通信 | コンテンツ配信システム、ネットワーク装置、及びその作動方法 | 客員上級研究員 理工学術院 大学院国際情報通信研究科 | | 特開2016-157200 | 2016/11/01 |
| 特許 | 1795 | 情報通信 | ステレオマッチングの処理方法、処理プログラムおよび処理装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 2017-162024 | 2016/05/12 |
| 特許 | 1735 | 情報通信 | 光変調器 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | | | 2015/12/03 |
| 特許 | 1715 | 情報通信 | 動画像検索方法、動画像検索装置及びそのプログラム | 教授（当時） 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | | 特開2017-21606 | 2015/11/03 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|-------|------|---------------------------------|---|--|---------------|------------|
| 特許 | 1610 | 情報通信 | コンテンツ配信装置、システム、及び方法 | 教授 理工学術院 大学院国際情報通信 研究科 | コンテンツ配信装置において、連続して転送される一連のデータを一時記憶し、そのデータが再度要求された場合には一時記憶から要求にตอบสนองする機能部とデータ再生装置における再生タイミングを制御する機能部を有し、一つのデータが一定時間一時記憶されていることを検出すると、一時記憶から応答するデータの再生タイミングを早め、また上流のサーバから送られてくるデータの場合には再生タイミングを遅らせる機能を有するコンテンツ配信装置。 | 特開2016-208172 | 2015/10/21 |
| 特許 | 1359 | 情報通信 | 見るだけで触感が伝わるシステム | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 仮想物体の立体映像と、ユーザの身体部位との重畳表示を行うことで、視覚によって「触錯覚（実際には触れていないのに触覚を感じる）」を誘発する、触錯覚呈示装置。ヒトの認知特性である、視覚と触覚という異なる感覚間の相互作用（クロスモーダル）を利用している。 | 特開2014-71546 | 2014/05/14 |
| 特許 | 1335 | 情報通信 | 記憶度推定装置および記憶度推定プログラム | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | ユーザが入力画面に解答を手書き入力する際に、入力開始までの時間や解答終了までの書き直し（消去字画数）等の所定の特徴量を取得し、統計処理を用いて一般ユーザの記憶度に基づく特徴量の傾向との比較を行い、比較結果を基にユーザが解答を完全に記憶しているか、迷いながら正解したか等を判定することで、ユーザの記憶度を推定する。 | 特許第6032638号 | 2014/03/26 |
| 特許 | 1192 | 情報通信 | 受信装置及び受信方法 | 教授 理工学術院 大学院国際情報通信 研究科 | SSB多重化を適用したOFDM信号を受信するときに、良好な伝送誤り特性が得られるようにするために、上側波帯と下側波帯の復調データそれぞれから、他の側波帯の情報シンボルに基づく影響成分を除去して復調データを復号する。また、復号された情報シンボルをフィードバックして上記の影響成分を生成する。 | 第5846601号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1152 | 情報通信 | 通信分類装置及び方法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 本発明は、過去に観測されなかった未知のアドレスにも対応可能なアドレスの評判判定を行い、結果として悪意のある通信の検出をする。本発明は通信を発生させた端末の判定対象アドレスを取得し、該判定対象アドレスに固有な特徴特徴ベクトルとして抽出する。悪意の有無を示すラベルが付与されたアドレスのリストを格納した訓練データ記憶手段に格納する。特徴ベクトルに対して教師付機械学習を適用して、訓練結果を取得する。訓練結果から通信が通常の通信か悪意のある通信かを確率的に判定する。 | 第5682089号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1131 | 情報通信 | 周波数通信器 | 教授 理工学術院 大学院情報生産シ ステム研究科 | 主として通信機に使用される周波数通信器において、トランジスタをピンチオフ付近で動作させた場合に発生する整数倍の高調波を取り出す回路に関する発明。 基本波抑圧回路の定数を調整することで、インピーダンス整合回路を一部省略することが可能。 | 第5646302号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1116 | 情報通信 | 立体映像呈示装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | レンチキュラー等の立体（3D）映像呈示方式を含む複数の画像提示方式と画像提示面を組み合わせることで、立体（3D）映像を自然かつ精緻に表現できるようにした立体映像呈示装置。 | 特許4856775号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1027 | 情報通信 | 辞書作成支援装置、辞書作成支援方法及び辞書作成支援プログラム | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | Web上でURLとリンクしたアンカーテキストを用いて、入力語と同義語の辞書を作成する手段であり、さらに同義語として相応しくない語を削除する機能を具備しており、同義語抽出の精度を上げることができる。 | 第5648890号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1009 | 情報通信 | 項目選択方法および装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 3D映像は映画、携帯電話、ゲーム等に取り入れられ、多くのコンテンツや機器類が市場へ導入されている。この発明は、視聴者の目の焦点深度に着目し3D映像を調整・再生するための技術であり、視聴者が違和感・疲労感を感じずに3D映像を鑑賞することが可能となる。 | 第5505881号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 959 | 情報通信 | 測距装置及びそのプログラム、並びに測距システム | 教授（当時） 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 内視鏡で撮像されたステレオ画像を用いて、内視鏡先端から臓器までの距離を自動的に求める技術。 予め記憶された色彩模様パターンとの照合から臓器の特定を行い、ステレオ画像の左右マッチングを行う。 | 第5283015号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 445 | 情報通信 | 立体映像呈示装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 画像呈示面の傾斜角度や観察者から呈示面までの視距離など、再生時の環境の変化に対応した画像呈示制御を実時間で行うことで、立体映像を自然かつ精緻に表現する装置を提供する。従って、観察者に対して一方的に立体映像を呈示するのではなく、観察者の動きや操作に応じて、インタラクティブ性を備えた最適な立体映像を呈示することができる。 | 第4975256号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 409 | 情報通信 | 乗算剰余演算器及び情報処理装置 | 教授（当時） 理工学術院 大学院情報生産シ ステム研究科 | 近年のBtoB、BtoC等の電子商取引の拡大に伴い、高い秘匿性の点で注目される公開鍵暗号方式において、暗号化及び復号化のために実行される乗算剰余演算（複数ビット法に基づく）を行う方式に関する技術。従来技術の課題であった乗算剰余演算に要する演算時間を短縮すると共に、回路規模の大幅な削減を実現できる技術を提供する。 本発明によって、携帯電話機、PDA、パーソナルコンピュータやサーバ装置等の近年の情報処理装置の普及に伴ってニーズの高まる、処理性能が高く、かつ低コストなLSI製品が実現可能となる。 | 第4170267号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 315 | 情報通信 | 立体映像呈示装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 光学補正を行い、立体映像観察時の調整と輻湊の不整合を軽減する立体ディスプレイシステムを提供する。ソフトウェアにより呈示された立体像の再生位置に同期して画像呈示面を移動させる。 | 第4549661号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 314 | 情報通信 | プロセスの状態類似事例検索方法および状態予測方法並びに記憶媒体 | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工 学科 | 本発明は、高炉などの複雑、非線形かつ非定常なプロセスの操業中に現在の操業状態と類似の過去事例を高速に検索し、プロセス将来状態の予測を的確に行い、かつ更新の不要なオンライン予測手法を提供する技術である。 | 第4268500号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 293 | 情報通信 | 立体映像評価装置および立体映像チューナ | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 立体映像の市場が活発化しており、コンテンツをとりまく“視覚負担の度合い”という「安全性」や“適正な興行き感が得られるか”といった「快適性」を評価するシステムが望まれている。そこで、簡易かつ効果的に立体映像を評価でき、この評価結果に基づき最適化した状態で立体映像を提示できるシステムを開発した。 | 第4469159号 | 2013/12/25 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|------|--|-------------------------------------|--|-----------|------------|
| 特許 | 291 | 情報通信 | プロセスの状態類似例検索および状態予測方法並びに記録媒体 | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工学科 | 複雑、非線形、かつ非定常プロセスにおいて、現在の操業状態と類似の過去事例を高速・高精度に検索する方法を提供する。更に、本発明による精度のよい将来予測は、今後の操業アクション決定のための重要なガイダンスとなり、操業の安定化に大きく寄与する。 | 第4307129号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 139 | 情報通信 | 計測装置 | 教授(当時) 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 本発明は、道路周辺の地物の位置を計測する装置であり、MMS(モービルマッピングシステム)を用いて白線以外の道路上、道路脇の地物の位置が計測可能となる。特に、従来のMMSのみでは計測が困難であったキロポストのような幅細の地物やガラスのような鏡面反射性の地物についても高精度に位置計測が可能になる。 | 第4344869号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 124 | 情報通信 | ネットワーク機器汎用相互通信装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 家庭内の入出力プロトコルを統一して取り扱い、機器に応じたビットマップ画面制御や音声出力を自動的に行う。シンクライアントの構造(ディスクレスWS)をアプリケーションソフトに導入した技術で、これからのユビキタ環境を実現する。 | 第4002442号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 123 | 情報通信 | 機器統合のためのネットワーク構築装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 異なる種類の家庭用途のネットワークをインターネットのプロトコルで統合管理する。URLで統一した通信を可能とし、URLに埋め込まれた制御コマンドを処理するというアプリケーションレベルのゲートウェイを提供する。 | 第4118566号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 97 | 情報通信 | 語学学習システムおよびプログラム | 教授 文学術院 文学部 | オンライン語学教育において、マウスにより単語を指定し、これをドラッグ&ドロップで移動する間に音声で発音を出力することにより、ヒアリングを中心とした語学教育の効率を向上する。 | 第3962426号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 94 | 情報通信 | 文章評価装置及び文章評価プログラム | 教授 理工学術院 創造理工学部 英語教育センター | 英作文の解答文の評価を、実情に沿って客観的にコンピュータ化して行う学習システム。英作文の正解文と解答文の間で、同一位置における単語の同一性の判断のみならず、他の独自の要素により、多様な評価を行う。 | 第4165898号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 82 | 情報通信 | 立体映像信号の編集方法、及び立体映像撮影用のビデオカメラの光学アダプタ装置 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 表現工学科 | 立体映像の入力/編集方式についての発明であり、1台のカメラを時分割で左右の映像を取り込み、それぞれの映像をソフトで統合管理する。これにより、立体映像のズーム、回転等の映像効果を安価に、柔軟に実現できる。 | 第4617024号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2013-0130-05 | 情報通信 | スポーツ映像のデータベース化、2次映像の自動生成、動作・戦略分析 | 教授 スポーツ科学術院 スポーツ科学部 | スポーツ映像(主にサッカー)をもとにした、コンピュータ処理可能なスポーツ映像データベース競技映像・選手やボールの動きなどの自動認識技術、手や足の動作に対するキネマティクス解析、動作予測のための統計的手法の開発、剛体リンクモデルや骨格筋モデルの構築 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-02 | 情報通信 | 在室・行き先情報提示版(DoorMSNGR)(独自開発) | 教授(当時) 人間科学術院 人間科学部 | ●研究フェーズ:応用開発研究、実用化・製品化研究 出先(会議、国内外出張先など)からスマートフォンを用いて容易に行き先表示・戻り日時を変更することができる情報提示板。 | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2013-0130-01 | 情報通信 | 聴覚障がい学生の講義への参加感を高めるノートテイク支援システム | 教授(当時) 人間科学術院 人間科学部 | ●研究フェーズ:応用開発研究、実用化・製品化研究 支援技術には、スウェーデンで開発されたアノトペンと呼ばれるデジタルペン技術と、大日本印刷株式会社が開発したプレゼンテーションシステム(OpenSTAGE®)が使われている。 紹介記事: http://www.waseda.jp/jp/news11/110804_ant.html | | 2013/01/30 |
| 研究 | 2011-0928-01 | 情報通信 | 高信頼ソフトウェアシステムの高効率な開発技術 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | トラブルを未然に防ぐためにはソフトウェアの信頼性の向上が必要不可欠である。ソフトウェアの開発は基本設計から実装まで複数の段階を経ることとなり、徐々に信頼性が失われて行く。これに対して段階ごとの処理過程によって、過去の開発事例を参考にパターン化・抽象化を行い形式検証を行うことで、段階ごとの信頼性の向上を図る。 | | 2011/09/28 |
| 研究 | 2011-0922-02 | 情報通信 | 動画上の注目度を検出・可視化し配信する方法及び装置 | 客員主任研究員(当時) 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 本発明は、閲覧者が動画中の「どここの部位を見る傾向にあるか」、つまり「注目度」を定量する方法(眼球運動計測装置は既存)と、その時系列統計的確率分布情報を動画上に可視化させ逐次更新・配信する手法及び装置・システムである。 | | 2011/09/22 |
| 研究 | 2011-0921-03 | 情報通信 | マルチメディアアプリケーション(MPEG2エンコード・MPEG2デコード)のOSCARコンパイラによる並列化 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | MPEG2エンコード処理ではマクロブロックレベルでの並列化を利用し、MPEG2デコード処理ではスライスレベルでの並列化とスライス処理内部でのマクロブロックレベル並列化を行うことにより、速度向上だけでなく、低消費電力化が可能となる。 | | 2011/09/21 |
| 研究 | 2011-0921-02 | 情報通信 | メニューコア性能評価用シミュレーション高速化手法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | メニューコアにおいて、並列化プログラムを逐次実行し、サンプリング対象ループから、統計的手法を用いて、期待する誤差の範囲内で全実行サイクル数を推定可能なインターレクション数を特定する。そのインターレクション数だけ詳細シミュレーションを行うことにより、少ないシミュレーション時間で高精度の実行サイクル数の推定が可能となる。 | | 2011/09/21 |
| 研究 | 2011-0913-02 | 情報通信 | 手書きノートからの効果的なサムネイル作成 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 一覧表示する際に、概要から容易に内容を把握できるサムネイル表示は有効であるが、手書きデータの場合は文字が小さくなりすぎることから、逆に時間がかかる結果となる。そこで下線や囲い込みといった強調表現を自動認識することで拡大表示し、図表と組み合わせることで重要部分のみを抽出したスニペットによる圧縮サムネイルを自動生成する。この結果、サムネイルの概要を容易に理解でき、検索効率を向上させることができる。 | | 2011/09/13 |
| 研究 | 2011-0913-01 | 情報通信 | 手書き数式入力システムMathBox | 教授 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科 | 数式記号の認識は、従来の文字認識技術で対応可能であるが、数式構造の認識は困難であり、これが数式の認識精度の低下の原因となっていた。これに対して、数式構造のパターンを予測し、ユーザーが数式入力を行うスペース(=Math Box)をあらかじめ表示することで、数式構造の認識を容易にし、認識精度を向上させる。さらに、指定されたスペースに対して入力可能性のある数式記号を例示することにより、誤認識時の修正を簡単にすることに成功している。 | | 2011/09/13 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------------|------------------------------|--|---|-------------|------------|
| 研究 | 2011-0908-02 | 情報通信 | ICカードの脆弱性の解明とその対策手法の構築 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | スキャンパス設計はLSI内部をランダムに張り巡らされているため本来であれば、設計者のみが知り得ることのできる秘匿情報であった。 それに対して、スキャンチェーンを構成するFF(フリップフロップ)が、ランダムに接続されていてもその相対位置は変化せず、出力されるデータ順序が一定であるという法則性を利用することで、ICカードに搭載されているLSIの暗号処理を解読できることを実証した。その結果、解読不可能であるとされている代表的な暗号規格であるAES暗号、RSA暗号、楕円曲線暗号(ECC暗号)の解読に成功している。 | | 2011/09/08 |
| 研究 | 2011-0908-01 | 情報通信 | 極低エネルギー化を実現する統合化システムLSI設計技術 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | LSIを構成する3つの要素である機能モジュール・記憶要素・制御要素に対して、「強結合」ならびに「弱結合」という新規概念による抽象化モデルを構築することで、上位工程から下位工程までを一貫した緩やかなルールを導入する。 さらに、従来の階層的な設計工程にとらわれず、導入したルールに従って設計工程を互いに協調させることで、「低エネルギー指向上下位統合化LSI合成アルゴリズム」を達成したLSI設計技術を確立することができる。 | | 2011/09/08 |
| 特許 | 1334 | 環境 社会基盤 | 高感度コンプトンカメラ | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用物理学 | 高感度で容易に携帯可能なガンマ線撮影用のコンプトンカメラです。 | 特許第5991519号 | 2014/06/19 |
| 特許 | 1102 | 環境 社会基盤 | アルミニウム合金選別システム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 合金系別にアルミニウム合金を判別し回収出来るシステムです。 アルミニウムあるいはアルミニウム合金は、省資源化と低コスト化の観点からリサイクルされています。迅速かつ大量にアルミニウムおよびアルミニウム合金を他の金属から選別して回収する中で、アルミニウム合金は添加される金属ごとに合金種が異なり、その用途も異なるために合金系別にアルミニウム合金の判別そして回収が必要です。 | 第5562193号 | 2014/06/18 |
| 特許 | 149JP | 環境 | 重金属不溶化剤 | 山崎 淳司 教授 理工学術院 創造理工学部 環境資源工学科 | 天然鉱物由来の新しい重金属溶出抑制剤、還元機能を有する為、6価クロム、砒素、セレンなどの溶出抑制にも利用できる。 | 第5697334号 | 2014/06/10 |
| 特許 | 59JP | 環境 ナノ・材料 | NLDHによる高度陰イオン吸着システム | 山崎 淳司 教授 理工学術院 創造理工学部 環境資源工学科 | NLDHは層状複水酸化物(ハイドロタルサイト:LDH)の一種ですが、結晶子をナノサイズに調製することで陰イオンの交換性能を飛躍的に向上させた新材料です。通常のイオン交換樹脂が有機高分子化合物であるのに対し、NLDHは無機化合物であり、環境にもやさしく安全です。ヒメダカ、マウス試験による安全性確認済みです。 | 第4036237号 | 2014/06/10 |
| 特許 | 692 | 環境 ライフサイエンス | 油脂分解性微生物及びそれをを用いた油脂含有廃水の処理方法 | 客員教授(当時) 理工学総合研究センター | 本発明は、厨房等からの廃水中に含まれる動植物性油脂を効率よく分解することが可能な新規微生物及びそれら微生物が産出する酵素、及び油脂含有廃水の処理方法に関するものである。広範囲な動植物性油脂・油に対して十分な油脂分解効果を有するとともに、特にラードや低温環境下においても優れた油脂分解能を発揮するため、ラードを多用するレストランや寒冷地のレストラン等において効果的な技術である。 | 第4566207号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2012-1029-03 | 環境 | 無機材料を利用した水・土壌の浄化材料の開発 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 有害金属全種類に対応した、経済性の高い汚染土壌の不溶化技術、水処理技術を有する | | 2012/10/29 |
| 研究 | 2012-1029-02 | 環境 | 無機分離膜に関する研究 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ■ゼオライト膜による分離プロセスの開発膜分離は、深冷分離など相の変化を伴う従来のプロセスに比べ、省エネルギーが可能な分離プロセスである。図1に示すように、ゼオライトは分子の大きさや吸着力の差を利用した分離機能を発揮することができる。我々は、世界に先駆けて分子レベルで分離を達成する無機膜を開発し、継続して研究を行っている。多孔質支持体上にゼオライトを薄層化する合理的手法を開発し、また、無機多孔質膜の構造、分離性能等を評価するキャラクタリゼーション手法を独自に開発し、一部製品化も試みている。 | | 2012/10/29 |
| 研究 | 2012-1001-08 | 環境 | 室内空間におけるSVOC(揮発性有機化合物)に関する研究 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 本研究室ではハウスダストの捕集のため、新たな捕集ノズルの開発を行いハウスダスト中のSVOC濃度に関する分析を行っている。一般住宅のみならず自然素材住宅や幼稚園など様々な空間においても測定を行い、室内のSVOC汚染レベルを測定している。また、室内の仕上げ材からのSVOC放散速度も測定し、建材からのSVOC放散速度がハウスダスト中のSVOC濃度にどのくらい影響を与えているのかなど、室内のSVOC汚染に関する対策を作るために様々な研究を実施している。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-07 | 環境 | 快適な駅空間の温熱環境に関する研究 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 2004～2006年に行われた実測調査では、都内に位置する非空調の4駅において環境測定と約4000人に対してアンケート調査を行合った。その結果、夏季において滞在者の20%以上が受容できないと申告した受容限界はSET* (標準有効温度) 32℃であり、多くの時間帯で限界値を超えていることが明らかになった。この限界値は室内の受容上限よりも高い。また、暑い駅の主要因として、気流が微弱であること、日射の影響が大きいことがあげられており、これらの要因に対して対策案の検討を進めている。2011年度の研究では、改札内に大規模な商業施設及び空調が導入された駅において、実測調査が行われた。その結果、夏季における受容及び快適の上限は非空調駅と同等であったが、快適の下限は空調が導入された駅の方が高いことが示された。また、外気の流入が構内の温熱環境制御を阻害する可能性が示唆され、要因の詳細な分析と対策案を検討している。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-06 | 環境 | 自動車室内の快適な温熱環境に関する研究 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 本研究では、非定常・不均一な温度環境下における快適性予測を目的とし、車室内乗員の詳細な生理量予測、快適性予測を試みている。夏季炎天下条件、冬季暖房条件に実車両を用いた被験者実験を実施し、予測精度の検証データを得ている。それらの結果を基に、体温調節数値モデルである人体熱モデルJOSの開発・改良に加えて、人体熱モデルJOSと数値流体解析CFD・放射解析との連成計算を行っている。 | | 2012/10/01 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----|----------------------------|-------------------------------|--|-------|------------|
| 研究 | 2012-1001-05 | 環境 | ZEB化省エネルギーにおける快適性・知的生産性評価 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 本研究ではZEB (net-Zero Energy Building) の実現に向けて改修が行われたオフィスビルにおいて、改修前後の物理環境、執務者満足度の変化を調査することにより、ZEB化改修の有効性を検証している。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-04 | 環境 | オフィスの生産性・経済性と省エネルギーの両立シナリオ | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 本研究では、実オフィスにおける執務空間に要求される環境要素と知的活動の相互関係の整理と、実オフィスにおける執務空間が執務者に及ぼす影響の把握を目的とし、室内環境調査、執務者行動調査、およびアンケート調査を実施した。さらに、知的活動、執務者行動、執務空間の相互関係を分析し、知的生産性・省エネルギー性の観点から執務空間に要求される環境要素の検討を行った。 [研究成果] (1) 知的活動ごとに重要な執務者行動が異なり、知識創造には拡散的思考やインフォーマルコミュニケーション、リラックスなどの多様な執務者行動が重要であるという申告結果が得られた (2) 対象建物では、ミーティングスペースだけでなく、自席周りでも活発にコミュニケーションが行われていた。 (3) 環境に対する満足度には、物理環境に加え、滞在時間および執務者行動内容による環境への期待度が影響している可能性が示唆された。 (4) 対象建物では、各環境満足度に影響を与えた環境因子として、温熱環境には「温冷感」、「出社時の暑さ」、「残業時の空調停止」が、光環境には「自然採光」、「タスク照明の明るさ」、「窓からの眩しさ」が、空気質環境には「空気よどみ」、「ほこりっぽさ」が、音環境には「騒音」、「静寂」が、空間環境には「空間の多様性」、「アクセスのよさ」、「空間の大きさ」が抽出された。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-03 | 環境 | エネルギー予測と環境対策シナリオ作成 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 生産性と快適性を損なわずに高いエネルギー削減効果をもたらす持続可能な節電手法を探ることを目的として、夏季節電環境下の複数のオフィスビルを対象とした実態調査を行った。 [研究成果] 温度を上げるよりも照度を下げの方が、不満足率が小さく知的生産性を維持できること、また電力削減効果が大きいことが明らかにされた 節電を行う際には、照明の節電を優先的に行い、タスクライトの設置やフロアを占有する執務者の属性に応じた適切な節電手法を選択することで、執務者の快適性や生産性を損なうことなく効果的に消費電力量を削減できると考えられる。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-02 | 環境 | 室内における二酸化塩素ガスの濃度制御手法に関する研究 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 本研究は、二酸化塩素ガスの中濃度域（本研究では、0.1ppm ³ ・0ppmとする）における問題点の把握、効果的な利用法の提案を行うことで二酸化塩素ガスの濃度制御手法の確立を目的とする。 二酸化塩素ガス濃度低減装置の開発を行い、各種フィルターに対する1 \times チャンバーを用いた性能試験、装置の効果検証を行うために、実際のオフィス空間を対象とした燻蒸後の二酸化塩素ガス濃度低減を確認する実空間実測を行った。また、活性炭の二酸化塩素ガス吸着能力を測定した。 [研究成果] 1) 活性炭の高い二酸化塩素ガス吸着能力が明らかになった。 2) 活性炭フィルター条件の相当換気量は大きく、特にハニカム状活性炭フィルターで顕著であった。 3) ハニカム状活性炭フィルターを用いた際、装置風量を増すと、装置風量に対する相当換気量の割合は低下するが、相当換気量は大きくなった。フィルター厚さを増すと、装置風量当たりの二酸化塩素ガスの捕集率が上昇することが分かった。 4) ハニカム状活性炭フィルター30mm厚を装置フィルターとし、対象室容積、装置風量、装置フィルター面積を変数とした、燻蒸後の装置によるガス濃度低減時の室内二酸化塩素ガス濃度予測式を提案した。 5) 実大居室での実測結果から、装置運転による二酸化塩素ガス濃度低減効果が確認され、実空間において二酸化塩素ガス濃度低減装置の有効性が示された。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-1001-01 | 環境 | スポット空調・パーソナル空調による熱的快適性実現 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 当該研究では、気流の個別選択性を持つパーソナル空調による快適性および知的生産性を評価することを目的として、同空調システムが導入され、実際に運用されているオフィスにおいて、風量選択可否を変えた条件を設定し、実測調査を行った。その結果、パーソナル空調の風量を選択可能とした条件において、温熱満足度が有意に高い値を示し、快適性が向上し、気流の個別選択性をもつスポット空調が執務者の快適性を向上させる可能性が示された。 | | 2012/10/01 |
| 研究 | 2012-0629-01 | 環境 | 津波・高潮に強い新しい海岸防護構造物の開発 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 全国で更改期を迎える海岸防災構造物の作り換えに合わせて、新たな構造形式に変えていく必要がある。被災機構の解明、沿岸環境への影響を考慮して、新しい構造形式を提案する。 | | 2012/06/29 |
| 研究 | 2012-0627-01 | 環境 | 製品価値創造における革新的課題解決法の提案 | 非常勤講師 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | 価値ある新製品開発企画・新事業企画のための手法（TRIZ：発明的問題解決理論）の提案。既存製品のクオリティの継続的な向上（改善活動）をめざすのではなく、5~10年先を見据えて社会変化を捉えた付加価値向上型の非連続（ラジカル）イノベーションを目指した新製品開発の方法論を提供する。 | | 2012/06/27 |
| 研究 | 2012-0625-01 | 環境 | 海水・海砂を用いる自己充填型コンクリート | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 練り混ぜ水に海水、細骨材に海砂、さらに優れた流動性と適度な粘性を付与できる新規混和剤（塩含有増粘剤-液型高性能AE減水剤）を利用した自己充填型コンクリートを開発した。 | | 2012/06/25 |
| 研究 | 2012-0619-04 | 環境 | 良質の地域土壌を用いた省エネ低コスト型の浄化材料開発 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 環境浄化資材としての火山灰土壌の活用。 | | 2012/06/19 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----|---|-----------------------------------|---|-------|------------|
| 研究 | 2012-0619-03 | 環境 | 廃棄物最終処分場を対象とした、都市鉱山としての評価と探査・回収技術 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 最終処分場の埋立物に含まれる金属の種類・量およびその鉱物的な賦存形態の解明と、回収有望な金属類を特定する技術。電気探査を利用して、金属類が濃集するゾーンの推定が可能である。 | | 2012/06/19 |
| 研究 | 2012-0619-02 | 環境 | 排水中の成分除去・回収システム | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 排水の持つ低濃度、多成分という特性を考え、目的成分を選択的に、かつ安定な形態で除去・回収しうるシステムとして晶析現象を利用する。 | | 2012/06/19 |
| 研究 | 2012-0619-01 | 環境 | 潜熱蓄熱利用システム | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 液体と固体との間の相転移に伴い移動する熱エネルギー（特に、温熱）を利用する潜熱蓄熱利用システム。 | | 2012/06/19 |
| 研究 | 2012-0614-01 | 環境 | 環境配慮商品・廃棄物ビジネスマネジメント | 教授 商学術院 大学院商学研究科 | 環境対応商品の市場性分析やプロダクト・マネジメント、廃棄物処理ビジネス等新規事業を科学的に開発するための方法論を提案する。 | | 2012/06/14 |
| 研究 | 2012-0321-01 | 環境 | ナノ流体を作動液とするマイクロヒートパイプ | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 銀のナノ粒子を含む作動液をマイクロヒートパイプに適用することで伝熱性能が向上する。 | | 2012/03/21 |
| 研究 | 2012-0315-01 | 環境 | 森林の地球温暖化軽減機能の評価 | 教授（当時） 人間科学学術院 人間科学部 | 途上国で起きている森林の地球温暖化軽減機能の評価を行う。森林減少や森林劣化の原因、地球温暖化の影響を調査し、低炭素社会を目指すための対策についての分析を行う。 | | 2012/03/15 |
| 研究 | 2012-0313-01 | 環境 | アジア諸国を中心とした環境影響・政策評価 | 教授 国際学術院 大学院アジア太平洋研究科 | 開発途上国が環境を守りながらも持続可能な社会を築いていけるよう、あらゆる観点から状況を把握し解決を導き出すことが必要不可欠であるが、その中でも地域特性を活かした方策を提案する。 例えば過去に行ったインドネシアの河川水質汚濁対策の事例では、分権型環境管理システムの問題点や有効な環境政策あり方に関する調査研究を行うことで、社会的アクターの関係性構築を試み、環境管理システムの改善に資するアクション・プラン作成に向けた議論を行い、アクションへ向けた提言を行った。会議体は下記2つの組織形成にて行い、その地域の様々な意見を取り入れる方法を用いた。各課題に対して適した会議体を選択し、運営することができる。 ・ラウンド・テーブル（RT）・・・政府・企業・市民という社会的アクターの参加型調査と社会的環境管理能力の形成を目的として、州政府、市政府、商工会議所、地元大学、環境NGOなどの組織形成を行い、様々な意見を取り入れた。 ・ステアリング・コミッティ（SC）・・・地方の取り組みを支援する国の制度・政策のあり方を中央政府、商工会議所、インドネシア大学などで構成にて検討を行った。 | | 2012/03/13 |
| 研究 | 2012-0312-03 | 環境 | 天然林・人工林の炭素固定量評価 | 教授（当時） 人間科学学術院 人間科学部 | これまで日本国内の森林や海外の熱帯雨林において、炭素固定量の推計を行ってきた実績があり、熱帯地域における植林地の簡易バイオマス推定の方法論を確立している。これらの知見を活かし、森林の炭素固定量を推計することが可能である。 | | 2012/03/12 |
| 研究 | 2012-0312-01 | 環境 | 統合化指標ELP (Environmental Load Point)による環境影響評価手法の開発 | 教授（当時） 理工学術院 大学院環境・エネルギー研究科 | ELP (Environmental Load Point)とは、本シーズにおいて開発を行った、LCA (Life Cycle Assessment) における統合化指標の1つである。 「エネルギー枯渇」「地球温暖化」「オゾン層破壊」「酸性雨」「資源の消費」「大気汚染」「水質汚染」「廃棄物処理問題」「生態系への影響」の9つの環境影響項目に分類を行い、パネル方法によるアンケート調査によりカテゴリ重要度を定めた。このカテゴリ重要度を係数として、異なる分野における環境負荷を同一単位で評価を行える統合化指標を開発した。 | | 2012/03/12 |
| 研究 | 2012-0301-01 | 環境 | サステナブル建築の設計プロセスマネジメント技術 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 建築設計プロセスをDSM (Design Structure Matrix) により分析し、最適化した設計プロセスを提示することで、現状の設計プロセスを改善することができる。また、新技術を建築物に導入する際の検討事項を整理でき、手戻りなどの不効率な設計プロセスを排除することができる。 | | 2012/03/01 |
| 研究 | 2012-0217-01 | 環境 | 環境政策の行政過程に関する社会科学研究 | 教授 理工学術院 大学院環境・エネルギー研究科 | 政策-法令-環境科学-環境技術-世論-マスコミ報道-利害関係を一体的に追跡しながら、以下のメソッドで実証的に分析を行っている。実施事例として、京都議定書採択以降のわが国の地球温暖化政策、資源循環政策の行政過程に関するテーマでの研究実績があり、国内政策の情報提供・現地調査を行うことができる。1. 環境政策や環境取組みに対する疑問を発見する。2. 研究課題を取り巻く社会・経済構造を読み取る。（現場にアクセスし基礎情報を収集。問題の構造を確認する。そのために法令、基礎科学・技術の特性を理解し、政治・行政、社会・経済の実相を客観的に分析・考察する）3. 研究のフレーミングとトリミングを行う。（研究の焦点を絞る。アクセスの方向と研究範囲の枠取りを設定する）4. 研究の手段を手に入れ、方法論を固める。（情報収集方法、分析・解析手法（データ処理等）を固め、マスターする） | | 2012/02/17 |
| 研究 | 2011-0920-03 | 環境 | 廃棄物からの有価物リサイクリングプロセスの構築 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 前処理としての各種粉砕の後、比重、電気的特性、磁気的特性、ぬれ性、形状、色彩、X線特性等、対象に沿った物理的および物理化学的特性を利用した分離法を組み合わせることで、環境低負荷型の有価物リサイクリングプロセスを提案することができる。 | | 2011/09/20 |
| 研究 | 2011-0920-02 | 環境 | 粉体シミュレーションによる粉砕・物理選別技術の最適化 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 粉体シミュレーションの1種である離散要素法 (Discrete Element Method, DEM) を用い、装置内の各粒子の位置や速度、および粒子間や粒子・壁面間の衝突エネルギーを詳細に把握することができる。 | | 2011/09/20 |
| 研究 | 2011-0920-01 | 環境 | 環境浄化プロセスの高度化 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | XAFSを含む詳細な固体分析技術、表面錯体モデルや反応速度論を組み込んだ地球化学シミュレーション等によって、各汚染状態に応じた最適処理プロセスの構築および条件の選定が可能である。最適プロセスの提案には、特殊粉砕や選別技術による前処理の追加、操作手順の改良、および金属回収による薬剤量削減および汚泥低減等を含む。 | | 2011/09/20 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|-------------|---|------------------------------------|--|---------------|------------|
| 研究 | 2011-0914-03 | 環境 | 未利用木質バイオマスからのバイオオイル製造および利活用ネットワーク | 教授 理工学術院 | 急速熱分解による木質バイオマスからのバイオオイル製造技術やガス化とバイオオイル化を組み合わせたマルチなエネルギー供給に対応した知見を保有している（プラントメーカーとの共同研究により実用段階に達している）。その他、バイオオイルの性状に対応した流通・保管、燃焼性等に関する知見を有する。さらに、林業との連携した原料供給システムの在り方も含めた利活用ネットワークの構築に関する取り組みも産学官連携体制で実施している。 | | 2011/09/14 |
| 研究 | 2011-0914-02 | 環境 | 家庭における環境配慮行動支援システムおよびプログラム | 教授 理工学術院 | 照明や空調等の自動制御を基本とした従来型のHEMS、BEMSとは異なり、人（入居者、従業員等）のライフスタイルやワークスタイルに着眼した環境配慮型行動支援システムおよびプログラムである。人の属性（年齢、性別等）や実行容易度に応じた情報提供や取得した計測データの効果的な「見える化」を可能とするアルゴリズムを保有している。スマートメータ等との連携や既存製品へ組み込むことを可能としている。 | | 2011/09/14 |
| 研究 | 2011-0914-01 | 環境 | 超軽量小型モビリティULV (Ultra Lightweight Vehicle) | 教授 理工学術院 | 「自転車以上自動車未満」をコンセプトとした超軽量小型モビリティULVを開発している。ミニカーのカテゴリーでナンバーを取得しており公道走行が可能である。現在は、社会的な要請からEVとしての開発を深化させているが、圧縮空気やガソリン、水素等をエネルギー源とした想定したMulti-PM (Prime Mover) の設計コンセプトを導入している。また、地場の中小企業と連携した「地産地活型」のビジネスモデルを訴求している点も特徴である。 | | 2011/09/14 |
| 研究 | 2011-0909-02 | 環境 ナノ・材料 | インクジェット法によるフレキシブルトランジスタの作製 | 客員教授 理工学術院 先進理工学部 | 単層カーボンナノチューブ (Single Walled Carbon Nano-Tubes) を有機溶媒に溶かした溶液をインクとして、プラスチック基板上にインクジェット法で有機トランジスタを作製できる。 | | 2011/09/09 |
| 研究 | 2011-0909-01 | 環境 ナノ・材料 | 有機発光トランジスタ | 客員教授 理工学術院 先進理工学部 | ダイオードではなくトランジスタ構造により大電流を流すことが可能となり、発光現象を得られている。発振の条件を詰めることで、有機レーザーを実現できる。 | | 2011/09/09 |
| 研究 | 2011-0909-04 | 環境 | 化学再生による熱エネルギーの質の向上 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 熱エネルギーは容易かつ大量に得ることができる反面、不可逆でエクセルギー率の高い状態を維持するのが困難であった。これに対し、化学再生では、水蒸気改質や部分酸化などのエクセルギー低下プロセスによって、エクセルギー率の下がった中低温の熱エネルギーを化学的に汲み上げることで、再び高いエクセルギー率の可能性を創出することができる。 | | 2011/09/09 |
| 研究 | 2011-0909-03 | 環境 | リチウムシリケートによるCO2分離回収技術 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 東芝で開発された「リチウムシリケート (Li4SiO4)」は、600℃でCO2を吸収し、800℃以上でCO2を放出する繰り返し可能な固体吸収材である。水蒸気の下で吸収速度が向上し、純CO2の分離回収が200℃程度の温度スイング操作で可能、自重の30%もの吸収容量があるなど優れた特徴を持つ。 | | 2011/09/09 |
| 特許 | 1999 | ナノ・材料 | 圧電型発電装置及びその製造方法 | 上級研究員 研究院（研究機関） | | | 2018/02/19 |
| 特許 | 1975 | ナノ・材料 | 生体埋め込み型の無線給電型発光システム | 講師 付属機関・学校 高等研究所 | | | 2018/01/15 |
| 特許 | 1971 | ナノ・材料 | ラマン分光測定装置及びラマン分光測定方法 | 客員上級研究員 | | | 2017/10/24 |
| 特許 | 1962 | ナノ・材料 | 生体用電極および生体用電極の製造方法 | 講師 付属機関・学校 高等研究所 | | | 2017/10/24 |
| 特許 | 1756 | ナノ・材料 | 集積回路の正常化方法、正常化回路、及び集積回路 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 2017-146777 | 2017/09/21 |
| 特許 | 1944 | ナノ・材料 | 物体マーキング用高分子薄膜およびその製造方法、物体測定キット、物体の測定方法 | 講師 付属機関・学校 高等研究所 | | | 2017/07/31 |
| 特許 | 1901 | ナノ・材料 | ノーマリーオフ動作ダイヤモンド電力素子及びこれを用いたインバータ | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | | 2017/06/23 |
| 特許 | 1931 | ナノ・材料 | 組電池、電池モジュールおよび電池モジュールの評価方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | | | 2017/06/23 |
| 特許 | 1923 | ナノ・材料 | トランス及び該トランスを用いたレクテナ | 准教授 理工学術院 先進理工学部 | | | 2017/06/23 |
| 特許 | 1936 | ナノ・材料 | 半導体センシングデバイス | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | | | 2017/06/23 |
| 特許 | 1871 | ナノ・材料 | パワー半導体モジュール装置及びパワー半導体モジュール製造方法 | 教授 理工学術院 大学院情報生産システム研究科 | | | 2017/06/16 |
| 特許 | 1843 | ナノ・材料 | トランジスタの製造方法及びセンサ素子 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 特開2016-178342 | 2017/03/06 |
| 特許 | 1659 | ナノ・材料 | カーボンナノチューブの製造装置 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | | 特開2016-153353 | 2017/03/06 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|-------|--|---|--|-------------------|------------|
| 特許 | 1624 | ナノ・材料 | 金属材の接合方法 | 上級研究員 研究院（研究機関） | | 特開2016-107 290 | 2017/03/06 |
| 特許 | 1618 | ナノ・材料 | テーパー光ファイバの製造方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | | 特開2016-153 850 | 2017/03/06 |
| 特許 | 1604 | ナノ・材料 | ナノカーボン基材の製造方法およびナノカーボン基材 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 特開2016-141 604 | 2017/03/06 |
| 研究 | 2017-0223-05 | ナノ・材料 | 超薄膜 光ルミネッセンスセンサー | 講師 付属機関・学校 高等研究所 | ◆ 自己支持性高分子ナノシート（数十～数百ナノメートル厚）からなる光ルミネッセンスセンサー◆ 担持するセンサー色素の種類に応じて検出項目を選択可能（例：温度・酸素濃度）◆ レシオメトリックな生体情報のセンシング | | 2017/02/23 |
| 研究 | 2017-0223-04 | ナノ・材料 | 単一入力信号によるMEMSマイクロミラーの3次元駆動 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆ 単一の駆動機構により3つの共振モードを出力◆ 3つの共振周波数を重ね合わせた一つの信号の入力によって3次元に駆動 | | 2017/02/23 |
| 特許 | 1687 | ナノ・材料 | 抗微生物活性を有するコラーゲン様ペプチド及びその組成物 | 教授 理工学術院 先進理工学部 化学・生命化学科 | 塩基性と三重らせん構造をもち、塩基性残基と疎水性残基の種類を変えることにより、強い抗微生物活性を有するように調製されるコラーゲン様ペプチド。ヒト線維芽細胞に対する毒性試験、ヒト赤血球に対する溶血性試験、マウスの急性毒性試験において、安全性が確認できている。 | 特開2017-141 26 | 2017/02/13 |
| 研究 | 2016-1024-05 | ナノ・材料 | 食の安全を守るバイオセンシング技術の開発 | 次席研究員 研究院（研究機関） | ◆ 半導体バイオセンサを用いて、食品中の微量含有物質の簡易検出を行う。◆ 微量でもアナフィラキシーショックを引き起こす食物アレルギーの有無を判定する技術を開発した。 | | 2016/10/24 |
| 研究 | 2016-1024-04 | ナノ・材料 | 生体表皮における化学バランスのモニタ | 上級研究員 研究院（研究機関） | ◆ 複数の化学物質をスマホから同時モニタする技術を開発（Fig. 1）◆ 心と体の健康に繋がるホルモンや免疫物質を検出（Fig. 2）◆ 皮膚pHを10秒以下で正確に測定する手法を開発（Fig. 3） | | 2016/10/24 |
| 特許 | 1827 | ナノ・材料 | 曲げ変形および伸縮変形可能な電子デバイス | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 2017-220555 | 2016/07/05 |
| 特許 | 1828 | ナノ・材料 | 視覚的質感提示デバイスおよび視覚的質感提示方法 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 2017-219681 | 2016/07/05 |
| 特許 | 1782 | ナノ・材料 | 電力素子 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 特開2016-157 932 | 2016/04/08 |
| 研究 | 2016-0204-01 | ナノ・材料 | 高機能化CNT細線の開発 | 金 太成 理工学術院 | ◆垂直配向CNTアレイから無撻CNT糸を連続的に紡績（Fig. 1）◆電解めっき処理によってCNT複合繊維を創製（Fig. 2）◆様々な金属によるめっき形態の制御が可能（Fig. 3）◆銅線の36.1%にあたる2.14×10 ⁷ S/mの電気伝導率を達成 | | 2016/02/04 |
| 研究 | 2016-0203-09 | ナノ・材料 | マイクロ流体白色有機EL | 小林 直史 理工学術院 基幹理工学研究科 電子物理システム学 専攻 | ◆液体発光材料として青緑色と黄色の液体有機半導体を使用◆集積化された60μm幅の微細マイクロ流路を作製◆青緑色と黄色液体材料をマイクロ流路に交互に注入（Fig. 3）◆青緑色と黄色の同時発光により白色光の実現（Fig. 4（a）,（b）） | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-08 | ナノ・材料 | ナノダイヤモンドp型透明電極 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆高濃度ボロンをドーブしても、高い透明性および優れた電気特性を有するナノダイヤモンドp型透明電極の製造方法◆アンドロップのダイヤモンド層上に高濃度ドーブ層を重ねた2層構造を形成して実現 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-07 | ナノ・材料 | ダイヤモンド基板上の垂直配向グラファイト層 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆ダイヤモンド(100)表面に高温イオン注入する◆注入後の熱処理（1700℃、2時間）により、格子間の炭素原子が表面に拡散◆垂直配向グラファイト層が形成 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-06 | ナノ・材料 | 多結晶ダイヤモンド上のパワーMOSFET（ダイヤモンド電界効果トランジスタ及びその製造方法） | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆多結晶ダイヤモンド（黒い）上にMOSFETを作製 ◆顕著な変調・良好なデバイス特性◆逆阻止耐圧1800Vを達成 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-05 | ナノ・材料 | 「埋もれた界面」の計測技術 - SERSを用いたプラズモンセンサ及び測定システム | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ◆ナノスケールでの固液界面など材料表面から埋もれた界面や原子レベルの化学構造変化が測定可能 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-04 | ナノ・材料 | 近接場分光顕微装置 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ◆ナノメートルの空間分解能で試料の分光特性評価が可能◆単一波長での測定に限定されていた反射観察を多波長に拡張◆「位相ステップング法」により広帯域かつ高精度の分光測定を実現◆測定対象が不透明なものでも測定可能に | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-03 | ナノ・材料 | 大強度広帯域テラヘルツ波発生手法（電磁波発生装置及びその方法） | 准教授 付属機関・学校 高等研究所 | ◆電子線による高強度広帯域テラヘルツ波発生◆電子線の傾きの利用により高効率化を実現◆広帯域性を有し、テラヘルツ分光などに有効◆テラヘルツカメラにも応答する高強度性 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-02 | ナノ・材料 | 高分子ナノシートを用いた電子デバイス | 講師 付属機関・学校 高等研究所 | ◆自己支持性高分子ナノシート（数十～数百ナノメートル厚）を基材とする柔軟な電子デバイス◆銀ナノ粒子のインクジェット印刷による室温での配線形成が可能◆ハンダ付け不要の分子間力による電子素子の実装 | | 2016/02/03 |
| 研究 | 2016-0203-01 | ナノ・材料 | 光で曲がる結晶材料 | 小島 秀子 ナノライフ創新研究 機構 | ◆光駆動アクチュエータ用結晶材料◆形状記憶合金に替わるフォトメカニカル結晶材料◆MEMSに替わる結晶機械 | | 2016/02/03 |
| 特許 | 1737 | ナノ・材料 | 近接場分光顕微装置 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ◆ナノメートルの空間分解能で試料の分光特性評価が可能◆単一波長での測定に限定されていた反射観察を多波長に拡張◆「位相ステップング法」により広帯域かつ高精度の分光測定を実現◆測定対象が不透明なものでも測定可能に | 2017-58281 | 2015/11/03 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------------|-------------------------------------|------------------------------------|---|-------------------|------------|
| 研究 | 2015-0424-01 | ナノ・材料 | 新しい有機発光デバイス：LEC | 理工学術院 大学院先進理工学研究科 | ・電気化学とエレクトロニクスの融合素子・LECに特化したイオン液体・塗布プロセス等による低コスト製法 | | 2015/04/24 |
| 特許 | 1390 | ナノ・材料 | リチウム二次電池活物質 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 充放電サイクル特製の良いリチウム二次電池活物質の製造方法を提供する。 | 特開2014-135 239 | 2015/03/11 |
| 特許 | 1379 | ナノ・材料 | 電気めっき液、リチウム二次電池用活物質の製造方法、及びリチウム二次電池 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 充放電サイクル特性の良いリチウム二次電池用活物質を安定して成膜できる電気めっき液を提供する。 | 登録第605720 8号 | 2015/03/11 |
| 研究 | 2015-0303-09 | ナノ・材料 エネルギー | FeCo系合金の逆磁歪効果を用いた小型発電素子 | 上級研究員 研究院（研究機関） | ・新磁歪材料FeCo系合金の開発 - 加工が容易、耐久性がある（開発元：弘前大学、東北大学金属材料研究所、東北特殊鋼株式会社）・高い発電効率を有する振動発電デバイス | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2015-0303-07 | ナノ・材料 | 低損失テーパー光ファイバと高Q値微小光共振器 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ・世界最高透過率・最短の低損失テーパー光ファイバ・高いQ値を持つ微小光共振器 | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2015-0303-06 | ナノ・材料 | 自己修復機能を有する金属配線 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | ・高伝導率・高伸縮耐性を有する電気配線を実現・断線部のみを選択的に修復する「自己修復機能」 | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2015-0303-05 | ナノ・材料 | マイクロ・ナノデバイス | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ・研究と技能に裏付けられた微細加工技術・化学/生化学分析・合成や細胞解析への応用 | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2015-0303-04 | ナノ・材料 | 自己組織化膜（SAM）を用いた電鍍技術 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ・無電解Ni系で良好な電鍍金型形成・ナノサイズかつ複雑な形状を精巧に実現 | | 2015/03/03 |
| 研究 | 2014-0122-07 | ナノ・材料 | 異種材料の低温大気圧ハイブリッド接合技術 | 上級研究員 研究院（研究機関） | ・配線金属と透明基板材料の150℃・大気圧雰囲気での混載接合（他材料接合事例あり）IEEE NANO ベストポスターアワード、日刊工業新聞掲載（2013.10.25）、関連特許2件など | | 2014/01/31 |
| 研究 | 2014-0122-06 | ナノ・材料 | ナノインプリント技術を用いた高品質GaNテンプレート基板 | 上級研究員 研究院（研究機関） | ・ナノインプリント技術によるナノサイズのマスクパターン転写技術・ドライエッチング技術によるEL0に適したマスクパターン形成技術・HVPE技術によるGaN結晶成長技術（古河機械金属（株））・光学測定による結晶性/残留歪評価技術（金沢工業大学） | | 2014/01/31 |
| 研究 | 2014-0122-03 | ナノ・材料 | EB-NILによる極微細構造体作製 | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | ・省エネ・低コストでの微小部材作製方法・生体適合性に優れた微小部材・極限環境下で使用可能な耐薬品・耐熱・耐放射線性に優れたフッ素系微小部材 | | 2014/01/31 |
| 研究 | 2014-0122-02 | ナノ・材料 | 新規なプラズモンセンサ及びラマン分光法を用いた界面計測技術 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ・表面プラズモンセンサと表面増強ラマン散乱を応用したラマン分光法による界面計測技術・新規なナノ構造の「反射型プラズモンセンサ」を開発・測定物に対応した自由なセンサ部の設計が可能・固液界面を深さ分解能0.1nm以下、非破壊での観察を実現 | | 2014/01/23 |
| 研究 | 2014-0122-05 | ナノ・材料 | ダイヤモンド半導体を用いた高信頼性電力素子 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ・550℃の大気中でも導電性が確保され、絶縁性が向上した保護膜の製造方法・表面を水素化したダイヤモンド基板上に2層の保護膜を形成することで実現 | | 2014/01/23 |
| 特許 | 650 | ナノ・材料 | 積層構造、超LSI配線板及びそれらの形成方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 超大規模集積回路（ULSI）の多層配線形成技術において、特に高アスペクト比の微細化トレンチ（溝部）/ビアにCu（銅）を埋め込むための金属構造及び無電解めっきに関するものである。本技術により、オール無電解めっきプロセスが構築できる。 | 第4911586号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2012-1019-01 | ナノ・材料 | ナノ粒子発光体フィルムの作製および太陽電池への適用など | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 本研究室では、数nmのナノ粒子発光体をボールミル粉砕方法で製造した。ナノ粒子発光体を使用して、全波長領域で90%以上の透過率を有する透明薄膜を作製した。 太陽電池上に以下の条件を満たす赤色蛍光体透明薄膜を作製する。 ①短波長光を長波長光に波長変換 ②長波長光はそのまま透過（→ナノ粒子を使用） 赤色蛍光体として以下の2種類の材料を使用 ・硫化物蛍光体 Ba ₂ ZnS ₃ :Mn (BZS) ・窒化物蛍光体 CaAlSiN ₃ :Eu (CASN) 硫化物蛍光体は古くから研究が進められているが、当研究室ではボールミル法によって数nmにナノサイズ化可能であり、これを用いて、分散性のある透過率の高い透明薄膜を作製した。 窒化物蛍光体は、酸化物、硫化物蛍光体に比して発光効率、耐久性が優れている。よって、本研究室では、ナノサイズ化の条件を検討中であり、波長変換を行う数十nmの粒子を得られた。そして、フォトダイオード上に透明薄膜を作製し、短波長光領域で波長変換が行われたことが確認できている。 | | 2012/10/19 |
| 研究 | 2012-0928-04 | ナノ・材料 | イオン照射による機能性光透過材料の創出 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 当研究室では、イオン照射による機能性光透過材料の創出を行っている。我々は、高分子材料であるフッ素化ポリイミドにイオン照射を行うことにより屈折率上昇が見られ、高分子光導波路の高機能化を実現。 | | 2012/09/28 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|----------------|--------------------------------------|-------------------------------------|---|-----------|------------|
| 研究 | 2012-0928-03 | ナノ・材料 | 新しい導波モードセンサの開発 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 当研究室では、感度、可搬性、操作を兼ね備えた導波モードセンサを用いて、様々な物質の検出や物質定数の測定が可能であると考え、新しい導波モードセンサを開発している。電気化学的手法と導波モードセンサの光学的手法を組み合わせることにより、これまでにないセンサの開発が期待される。1. メッキ液の基本組成に加え、添加剤の管理も自動で行えるAii-in-One型自動液管理装置の実現。2. 環境基準値の重金属溶液を簡易に検出できるセンサの実現 | | 2012/09/28 |
| 研究 | 2012-0928-01 | ナノ・材料 | 高分子ナノコンポジットの実用化に向けた電気特性解明 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 当研究室では、高分子ナノコンポジットの実用化に向けて、以下の様な研究を実施している。 ・無機フィラーによるエポキシ樹脂ナノコンポジットの絶縁・誘電特性制御 ・小型化されたパワー半導体モジュールに適した高絶縁・高熱伝導材料の開発・作製 ・高周波対応磁性・誘電材料の創出 | | 2012/09/28 |
| 研究 | 2012-0712-06 | ナノ・材料 | ナノ粒子配列基板の製造 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 化学合成法により得られる粒径数ナノメートルの磁性粒子1つを1記録ビットとするビットパターン型垂直磁気媒体 (BPM) を実現するためのナノ粒子の配列技術を提供する。図は、物理的ガイドを設けた基板上に有機分子を化学修飾して、その上にFePt粒子を並べた様子を観察したSEM像である。粒子のある程度の規則配列集団は、粒子分散溶液の乾燥時に出来るメニスカス表面に形成されているが、規則配列集団は様々な向きを持つことが可能である。このため基板に固定化された粒子の配列には、数10から数100 nmナノメートルの大きさのドメインが見られるようになり、この範囲で粒子配列に乱れを生じさせる。また、ごく僅かの粒径の差によっても粒子間に働く力が不均等になり、同じく配列に乱れを誘起させる原因となる。物理的ガイドは、より強い力でこのドメインの乱れを防止する役割としてために設けている。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0712-05 | ナノ・材料 | 低抵抗と優れた機械強度を実現するハードゴールドめっき技術 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 硬質AuNiめっき膜に炭素を導入することで、めっき薄膜の構造を非晶質化し、抵抗率を下げることなく、大幅に耐摩耗性を高めたAuNiめっき膜作製に係る技術。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0712-04 | ナノ・材料 | オールウェットULSI作製プロセス | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本技術は、シリコン基板、low-k基板、ポリイミド基板上へのバリア層形成およびその後続く銅配線を提供する。無電解めっき法を用いて成膜したバリア膜では、6nm厚さまでの薄膜化を確認している。また無電解めっき、あるいは電気めっきを用いての微細トレンチへの銅埋め込みおよび保護層形成に成功している。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0307-01 | ナノ・材料 | 有機“やわらか”二次電池 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 迅速かつ可逆な電子授受能力を有し、室温大気下でも安定に取り扱える高分子（レドックスポリマー）の開発。 | | 2012/03/07 |
| 研究 | 2011-0922-03 | ナノ・材料 | 二次電池電極材料及び電解質の開発 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 正極材料として、石油精製過程での副産物であるSを利用して生成したLi ₂ Sを使用した二次電池の作製。 | | 2011/09/22 |
| 研究 | 2011-0916-01 | ナノ・材料 | 大規模分子シミュレーション | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 「ダイナミックボンド型大規模分子動力学法」により、化学反応も含めた大規模分子シミュレーションを行うことができる。 | | 2011/09/16 |
| 研究 | 2011-0906-03 | ナノ・材料 エネルギー | 有機空気二次電池 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 有機二次電池の正極を空気にした有機空気二次電池を開発した。短時間（数秒）で充電することが可能である。また、500回の充放電サイクル試験後も容量低下がほとんど見られない。負極材料としてはアントラキノン置換した有機ポリマー材料を用いており、多電子酸化還元（レドックス）反応による高エネルギー密度化（221 mAh/g）を実現した。 | | 2011/09/06 |
| 研究 | 2011-0906-02 | ナノ・材料 エネルギー | 貴金属ナノ微粒子（プラズモニック物質）による光エネルギー制御 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 所有する近接場光学顕微鏡を用いて、プラズモニック物質のプラズモンを観察・可視化することができる。プラズモニック物質は光と相互作用することで、様々な性質を見せるが、その経過を高い時間分解能・空間分解能で観察することができる。 | | 2011/09/06 |
| 研究 | 2011-0906-01 | ナノ・材料 | 近接場光学顕微鏡での物質観察 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 近接場光学顕微鏡を使うことで、測定範囲10～100ミクロン四方で、物質の形状に加えて「色」を観察できる。 | | 2011/09/06 |
| 研究 | 2017-0223-02 | エネルギー | スケーラブル・マイクロ熱電発電デバイスの開発 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆ Siナノワイヤの優れた熱電変換性能を利用◆ Si-LSI製造プロセスで大量生産可能な微小熱電発電デバイス | | 2017/02/23 |
| 研究 | 2017-0223-01 | エネルギー | 量子効果を利用した高効率薄膜太陽電池の研究 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ◆ 単接合太陽電池では最適なバンドギャップエネルギーが存在（図1）◆ 量子効果を生み出す超格子構造（図2）による励起子（図3）の生成◆ 励起子による光の効率的な吸収（図4） | | 2017/02/23 |
| 特許 | 1729 | エネルギー | 海洋鉱物資源の調査装置 | 特任教授 理工学術院 創造理工学部 | 海底下の金属鉱物資源を電磁探索する装置である。 | | 2015/10/23 |
| 特許 | 1129 | エネルギー | リチウム二次電池用活物質、リチウム二次電池用負極、およびリチウム二次電池 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 電析法で作製したSi、O、Cを主成分とするアモルファス膜を負極活性物質として集電体に形成することにより、Liイオン二次電池のサイクル特性（放電容量保持率/cycle）が大幅に改良される。めっき形成のため製法も簡単である。 | 第5697078号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1123 | エネルギー | 多数台連系した太陽光発電システムの出力抑制回避方法及びその装置 | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工学科 | 太陽光発電システムが多数台連系された配電系統において、既存の装置に機能を付加しただけで需要家（住宅）間の出力抑制量の不平等を是正することが出来る。各戸に設置されたパワーコンディショナー（PCS）の端電圧を測定し、電力管理値の設定値との差分を算出の上、個別に電圧上昇抑制機能動作電圧を設定する。 | 第5612417号 | 2013/12/25 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|---------|-------------------------------------|--------------------------------------|---|-------|------------|
| 研究 | 2012-1029-01 | エネルギー | 規則性多孔体の合成と触媒化学への展開 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | ■マイクロ・メソ多孔体に関する研究 原料ゲルを一旦乾燥し、これを気相中で結晶化させるという方法である。DGC法を用いると水熱合成法では得られない構造や組成のゼオライトが得られる。また、DGC法におけるゼオライトの結晶化機構に関する研究を進めている。DGCまたは水熱合成法を用い、新規な構造をもつマイクロポーラス結晶の探索、触媒特性の評価、結晶化過程の解明、結晶骨格への異種元素導入法の開発を行っている。 | | 2012/10/29 |
| 研究 | 2012-0903-04 | エネルギー | フォトカソードRFガンを用いた逆コンプトン散乱軟X線源の開発 | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | ■フォトカソードRFガンを用いた逆コンプトン散乱軟X線源の開発 本研究は、生体観測用軟X線顕微鏡への応用を最終目的とする、逆コンプトン散乱を用いたコンパクトで高品質な軟X線源の開発である。逆コンプトン散乱とは、高エネルギーの電子と長波長の光が衝突することでより短波長の光が得られる現象であり、一般によく知られているコンプトン散乱の逆過程にあたる。鷲尾研究室では、フォトカソードRFガンを用いた高品質電子ビーム源の開発とその応用研究を進めており、本研究はその応用実験の一つとして位置づけられ、これまでに逆コンプトン散乱による軟X線生成と検出に成功している。 | | 2012/09/03 |
| 研究 | 2012-0903-03 | エネルギー | 集束イオンビーム (FIB) によるマスクレス直接エッチング技法 | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 本研究では、架橋PTFEのナノスケール微細加工を検討するため、集束イオンビーム (FIB) によるマスクレス直接エッチングを試みている。作製した微細構造体のFE-SEM像を図に示す。 | | 2012/09/03 |
| 研究 | 2012-0903-02 | エネルギー | 放射線化学反応初期過程の解明 ～パルスラジオリシス実験～ | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 鷲尾研究室では、コンパクトなフォトカソードRF電子銃を用いた世界最小のパルスラジオリシスシステムの構築を行っている。現在、ナノ秒分解能システム、ピコ秒分解能システムの構築をほぼ終えた。ナノ秒システムではオシロスコープで時間挙動を直接測定できるため、短時間で多くのサンプルの測定が可能であり、かつ、ピコ秒システムと組み合わせると、幅広い時間領域で現象を追跡可能。 | | 2012/09/03 |
| 研究 | 2012-0903-01 | エネルギー | 高品質ビーム利用実験 | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 鷲尾研究室では、PEMFCに関する研究を行っており、また、小型軽量化が可能な個体高分子型燃料電池 (PEFC) 用電解質膜として利用可能な素材開発に取り組んでいる。 | | 2012/09/03 |
| 研究 | 2012-0807-01 | エネルギー環境 | ヒートポンプを中核とした革新的省エネルギー技術 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 当該技術の特徴は、熱は暖かいものから冷たいものに移動、気体は圧力が高いところから低いところに一気に吹き出すと急激に冷却されるという二つの原理。当該技術は、運転条件により大きな省エネ余地が期待される。また、スマート化の中でヒートポンプを中心として最適なエネルギーシステムの運用をすることが重要となる。 | | 2012/08/07 |
| 研究 | 2012-0712-03 | エネルギー | ラミネート型リチウムイオン二次電池の作製技術開発 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本技術は、50～1000mAhのラミネート型リチウムイオン二次電池を供給可能なことである。研究室保有の優れたドライエア環境下(供給エア：露点 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0712-02 | エネルギー | インピーダンス測定によるリチウムイオン電池 (LIB) セルの劣化把握 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本技術は、市販LIBのインピーダンス解析において市場での電池評価に「使える」測定法の確立を目的として、電解液の抵抗、正極・負極の界面反応、被膜、固相内のイオン拡散などの電池内部の構成を考慮しつつも最低限の因子で、幅広い周波数帯の解析に使用可能な等価回路を設計し、そのインピーダンス応答からLIBの容量劣化を解析できる。加えて、低温条件下でインピーダンス解析を行うことで、常温では議論出来なかったプロセスのより正確な解析が可能となることも見いだしている。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0712-01 | エネルギー | リチウム二次電池用長寿命シリコン負極合成 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本技術は、シリコンの還元析出と同時に有機溶媒が還元分解することで、マイクロなレベルでシリコンと有機無機複合体の混合物作製に成功した。得られたシリコン電極は、酸素、炭素がナノスケールで分散したアモルファスシリコンで構成され7000サイクル後においても約800mAh/g という非常に優れた差し繰る特性を示した。 | | 2012/07/12 |
| 研究 | 2012-0313-03 | エネルギー | 環境調和型電動車両の設計・製作・性能評価 | 教授 理工学術院 大学院環境・エネルギー研究科 | 本研究室では、これまでに電動バスや各種電動車両を開発してきている。特に電動バスについては、実用化レベルまで開発が進んでいる。これらの知見を基に、様々な電気車両を対象とした設計・製作・性能評価を行うことが可能である。 | | 2012/03/13 |
| 研究 | 2012-0313-02 | エネルギー | 熱交換器内におけるナノ流体による最大除熱量の増大 | 特任教授 理工学術院 大学院先進理工学研究科 | 熱交換器内の媒体 (水) にTiO ₂ ナノ粒子を混ぜ、蒸気発生器を数時間予備運転することにより、伝熱管内部にナノ流体が吸着し、ナノ構造が形成される。それにより、除熱量が増大する。 | | 2012/03/13 |
| 研究 | 2012-0312-02 | エネルギー | 自然災害に強いスマートコミュニティ/エコタウンの設計と運用 | 特任教授 (当時) 理工学術院 大学院環境・エネルギー研究科 | 気象等に影響を受けやすい再生可能エネルギーを利用した地域エネルギー供給システムの構築には、電力を安定的に供給する技術が不可欠である。本研究室では安定的に電力を供給する地域エネルギー供給システムの計画、構築、評価を行うことができる。また、独立系の電力を確保することにより、災害に強い電力構成を構築することが可能である。技術的シーズとして、以下の支援も可能なツールがあり、いずれも実用規模の対象システムへの適用が可能である。1. 大規模組合せ問題の最適化アルゴリズム 2. ループ及びPV指定ノードを含む大規模配電ネットワークの潮流解析アルゴリズム 3. 所与の敷地において最大出力を得るための太陽光パネルの最適配置決定アルゴリズム 4. 実規模電力システムの発電出力決定のための多目的最適化アルゴリズム 5. 途上国の電源開発のための大規模動的計画法の拡張高速アルゴリズム 6. 電気自動車の走行パターンを考慮した充放電制御シミュレーション支援ツール 7. スマートグリッドの電源、バッテリーの最適組み合わせと容量決定アルゴリズム 8. 熱と電気の融通を目的としたスマートコミュニティの構成と運用解析アルゴリズム 9. 風力出力変動を緩和するピッチ角とバッテリー制御シミュレーション支援ツール 10. 地域主導の地産地消型エコシティ構築のためのエネルギーシステム最適化アルゴリズム | | 2012/03/12 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|------------------|---|-------------------------------------|---|--------------|------------|
| 研究 | 2012-0220-01 | エネルギー | 数値計算によるリチウムイオンバッテリー内部輸送メカニズムの解明技術 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 汎用数値計算ソフトBDS (Battery Design Studio) にて設計したHEV (ハイブリッド車) 用リチウムイオンバッテリーを用いて、「実機の定電流試験」シミュレーションを実施できる。シミュレーションにより獲得した基本特性である充放電曲線からバッテリー性能を効率で簡易的に表現しHEVシミュレータに導入可能である。 | | 2012/02/20 |
| 研究 | 2011-0922-01 | エネルギー | スマートグリッド実現に向けたエネルギー制御手法の開発 | 教授 理工学術院 先進理工学部 電気・情報生命工学科 | その双方を継続実現可能な次世代の最適な電気エネルギー供給形態をトータルデザインするため、コンピュータシミュレーションと次世代スマートグリッド模擬実験によって先進的方法論を開発する。 | | 2011/09/22 |
| 研究 | 2011-0920-04 | エネルギー | 水蒸気圧縮ヒートポンプを利用した省エネルギー・環境技術 | 教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 蒸発プロセスから生ずる水蒸気を圧縮し、凝縮潜熱を引き続く蒸発に回収利用する画期的な省エネルギー蒸発脱水技術 (VCC) を研究開発しており、理論設計は完成してプロトタイプ実験を経ている。さらに、実用化の要となる小型水蒸気コンプレッサーの高効率化も研究している。 | | 2011/09/20 |
| 特許 | 1744 | ものづくり技術 | ポーラス構造体の製造中間体及びポーラス構造体の製造方法 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | 2017-155271 | 2017/10/25 |
| 特許 | 1910 | ものづくり技術 | 羽ばたき型飛行機 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | | | 2017/06/23 |
| 研究 | 2017-0223-07 | ものづくり技術 | 熱処理による金属材料の疲労き裂治癒 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆ き裂先端近傍では約90%の疲労き裂治癒を実現 ◆ 約75%の静的引張強度の回復を実現 ◆ 真空加熱による酸化膜除去及び塑性誘起き裂閉口、原子拡散による疲労き裂治癒 | | 2017/02/23 |
| 研究 | 2017-0223-06 | ものづくり技術 | 3Dナノ構造界面を有する異種材直接接合 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆ Al表面上のナノスパイク構造(NSS)の作製 ◆ CFRTPとAlのホットプレスによる直接接合 ◆ シランカップリング処理による接着強度の向上 | | 2017/02/23 |
| 研究 | 2017-0223-03 | ものづくり技術 エネルギー | 簡易組み立て工程で実現するポリマーエナジーハーベスター | 上級研究員 研究院 (研究機関) | ◆ metal nanoinkとインクジェットプリンタで配線 ◆ 圧電材料はVDF/TrFE、スピコンコート法で塗布 ◆ 1μJを超える発電量 | | 2017/02/23 |
| 研究 | 2016-0614-01 | ものづくり技術 | 医療手技訓練用ヒューマノイド | 准教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 医師など医療従事者の訓練に用いる患者シミュレータに関する技術。アクチュエータによって1台のシミュレータでさまざまな患者を再現することや、センサによって手技を計測し評価することが可能。 | | 2016/07/14 |
| 特許 | 1736 | ものづくり技術 | 多結晶ダイヤモンド上のパワーMOSFET (ダイヤモンド電界効果トランジスタ及びその製造方法) | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | ◆多結晶ダイヤモンド (黒い) 上にMOSFETを作製 ◆顕著な変調・良好なデバイス特性 ◆逆阻止耐圧1800Vを達成 | 2017-45897 | 2015/11/03 |
| 特許 | 1732 | ものづくり技術 | 大強度広帯域テラヘルツ波発生手法 (電磁波発生装置及びその方法) | 准教授 付属機関・学校 高等研究所 | ◆電子線による高強度広帯域テラヘルツ波発生 ◆電子線の傾きの利用により高効率化を実現 ◆広帯域性を有し、テラヘルツ分光などに有効 ◆テラヘルツカメラにも応答する高強度性 | 特開2017-54699 | 2015/11/03 |
| 特許 | 1231 | ものづくり技術 | 羽ばたきロボット | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 羽ばたき運動を行う小型の無人飛翔体(MAV)であり、フラッピングやフェザリングの角度を自由に変更出来る。 | 第5857658号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1181 | ものづくり技術 | 低温金型・低圧鋳造法 | 教授 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 低温の金型を用い低圧鋳造を可能とすることにより、鋳物組織の微細化を達成し、かつメートルサイズの中空薄肉鋳物を製造することができる低温金型・低圧鋳造法である。 金型のキャビティ部の平均内面温度を250℃以下とし、かつ該金型の湯口部の内面温度を350℃以上とする一方、該金型のキャビティ部内面に、粉体離型剤を1?当たり1~10g塗布し、さらに該キャビティ内に設置した中空の中子の当該中空部を巾木の開口部を通して金型外へ排気しつつ、上記溶解炉の炉内空間を加圧することにより、該溶解炉内の溶湯を上記キャビティに充填する。 | 第5704641号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1038 | ものづくり技術 | 金型製造方法およびその方法により形成された金型 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 自己組織化膜上に形成した無電解Niめっき膜と基板上の無機薄膜との密着力が10MPa以上50MPa以下であることを特徴とする電解厚膜金属金型を提供する。ナノサイズのパターン、三次元構造の形状についても埋め込み可能となる。 | 第5665169号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 1018 | ものづくり技術 | ガスサンプリングデバイス | 教授 (当時) 理工学研究科 生命理工学専攻 | 本発明は、水素生産能を目的とした光合成微生物の培養や、建材や接着剤に含まれるホルムアルデヒドやトルエンといった揮発性化学物質の測定試験で用いるフレキシブルサンプリングバッグに装着するガスサンプリングデバイスである。1つのサンプリングバッグから経時的に何度でもバッグ中のサンプルガスを採取することが出来る。 | 第5294128号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 806 | ものづくり技術 | 有機高分子製品に自己消火性を付与する改質剤およびその使用方法並びに自己消火性を有する有機高分子製品 | 客員教授 (当時) 理工学総合研究センター | プラスチック、ゴム、木材、紙などの有機高分子製品において、その物性を低下させることなく簡易かつ低コストで自己消火性を付与することができる。火災時に有毒ガスを発生させるハロゲン化合物などの物質を用いないため、環境に対する負荷も極めて小さい。有機高分子製品を用いる全ての産業に利用可能で、特に住宅産業や自動車産業での利用が期待される。 | 第4332578号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 797 | ものづくり技術 | 切削研削用組成物、切削研削油剤、切削研削用ホイール及び表面改質材 | 教授 (当時) 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 本発明は、環境負荷が極めて低い鉱物微粒子を、切削・研削油剤等に分散もしくは加工工具表面に付着し加工することで、加工精度及び工具寿命の向上に寄与する。 | 第5476666号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 774 | ものづくり技術 | 制御装置、制御方法、及び2足歩行ロボット | 教授 理工学術院 | 人間搭乗型2足歩行ロボットにおいて、搭乗者によって加えられる力に対応可能な制御装置、制御方法およびその2足歩行ロボットを提供する。より大きい外力に対応可能なほか、路面の細かい凹凸やロボット各部のたわみなどの不安定要素に対しても補償可能なため、より安定した2足歩行を実現する。階段の昇降が可能な2足歩行型車椅子などにも有用な技術である。 | 第5083763号 | 2013/12/25 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|---------|-----------------------------------|------------------------------------|---|-----------|------------|
| 特許 | 651 | ものづくり技術 | 無電解銅めっき浴、無電解銅めっき方法及びULSI銅配線形成方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | ポイド等の欠陥の形成を下及的に防止しつつ、トレンチの効率的な埋め込みが可能。更に、微細なトレンチへの均一な付着が難しい乾式法によるシード層形成によらず、全工程を湿式工程で構成して、より均一かつ確実にトレンチの埋め込みめっきを施す発明である。 | 第4931196号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 615 | ものづくり技術 | 木材の改質法および該方法で改質された木材 | 客員教授（当時） 理工学総合研究センター | 木材を改質する際に塗布・含浸された各種薬剤が水によって溶脱するのを抑制する。木材特有の外観および調湿性を維持したまま耐久性を向上させ、法規制のため従来は使用されなかった用途での木材使用が可能となり、木材の需要拡大や日本の森林再生に貢献することが期待される。 | 第4496034号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 352 | ものづくり技術 | マイクロリアクタ及びその製造方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 本発明は、微小なマイクロ空間において、外部からの観察が容易であり、隣接容器間で試液同士が混合しにくく、更に、高アスペクト比の容器を有するマイクロリアクタアレー及びその製造方法を提供することを目的とし、従来の課題であったマイクロ空間での試薬混合等の問題を解消する技術である。また、本発明の範囲内で、基盤及び容器の厚さ、材料及び形状、使用した溶液やエッチング等の実施形態の条件変更にも対応が可能である。 | 第4356109号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 248 | ものづくり技術 | 電荷付与体およびそれを用いたパターン形成体 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 結晶性半導体に着目し、結晶性半導体有する結晶構造を巧みに利用し、従来では困難であった微細なパターン形成を低コストで実現する技術を提供する。 | 第4614631号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 235 | ものづくり技術 | 結合水を含む複合材料 | 客員教授（当時） 理工学総合研究センター | 帯電性物質（プラスチック等）の帯電防止用材料。結合水を含む金属酸化物三次元架橋体由来の結合水の形に固定した水を含むことを特徴とする複合材料。 | 第3871999号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 163 | ものづくり技術 | 軟磁性薄膜及びその製造方法並びにその薄膜を用いた薄膜磁気ヘッド | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 高速書き込み可能化のため、無電解めっき法によるCoNiFeB軟磁性薄膜の高比抵抗化の検討を行ない、高 ρ を有し、かつ非常に高いBs及び低いHcを併せ持つ無電解CoNiFeB軟磁性薄膜の作製が可能となった。 | 第4041948号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 66 | ものづくり技術 | 軟磁性薄膜およびその製造方法、並びにその薄膜を用いた薄膜磁気ヘッド | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 無電解めっき法による高いBsと良好な低保磁力を有するCoNiFe系の軟磁性薄膜を提供する。この軟磁性薄膜を用いた磁気ヘッドは高い書き込み能力を発揮する。 | 第4645784号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 44 | ものづくり技術 | 微細パターンの作製方法 | 特任研究教授 理工学術院 先進理工学部 応用化学科 | 無電解メッキ浴を用いて軟磁性薄膜のパターンメッキ膜を得る際に、選択析出性の向上のため、微量の有機添加剤の添加、メッキ浴の適度の攪拌、浴中不純物の除去を行って、析出性を向上させてパターンメッキを得る。 | 第4811543号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2012-0618-01 | ものづくり技術 | 循環型生産実現のためのライフサイクルシミュレーション技術 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 製品の企画・開発段階で、環境負荷削減策を組み込むために、設計、製造、仕様、回収、再生といった製品ライフサイクル全体を計画・評価するための、ライフサイクルプランニング技術とライフサイクルシミュレーション技術。 | | 2012/06/18 |
| 研究 | 2011-0922-04 | ものづくり技術 | 液晶広角中心窩レンズ | 客員主任研究員（当時） 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 外部印加電圧により屈折率を制御できる液晶材料を用いた素子を応用し、120度の広い視野を維持したまま、（単数～複数の）注目点の位置や拡大率を変化させることができる液晶広角中心窩レンズの開発に取り組んでいる。1.5mmの薄さの光学レンズ（液晶レンズセル）により構成されており、メカニカルな可動部は不要である。 | | 2011/09/22 |
| 研究 | 2011-0914-04 | ものづくり技術 | ポーラス金属の製法と機械的性質の改善 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 溶湯発泡法を用いた各種アルミニウム合金の製法（気孔安定化への提言） 塑性加工（圧延、押し出し、ワイヤブラッシング、ショットピーニングなど）によるポーラス金属の強化技術。 | | 2011/09/14 |
| 特許 | 2020 | 社会基盤 | 自動歯磨き装置 | 准教授 理工学術院 理工学術院総合研究所 | | | 2018/02/19 |
| 特許 | 1985 | 社会基盤 | 移動体の追従画像提示システム | 次席研究員 理工学術院 理工学術院総合研究所 | | | 2018/01/23 |
| 特許 | 1992 | 社会基盤 | 動体反応確認システム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | | | 2018/01/15 |
| 特許 | 1991 | 社会基盤 | 超音波プローブ移動装置 | 教授 理工学術院 創造理工学部 | | | 2018/01/15 |
| 特許 | 1986 | 社会基盤 | 自律移動ロボット、並びに、その制御装置及び動作制御プログラム | 次席研究員 理工学術院 理工学術院総合研究所 | | | 2018/01/15 |
| 特許 | 1913 | 社会基盤 | 能動的接触力調整エンドエフェクタ | 助教 理工学術院 | | | 2017/06/20 |
| 特許 | 1912 | 社会基盤 | 停電時の安全性を持つ可変トルクリミッタ | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | | | 2017/06/20 |
| 特許 | 1911 | 社会基盤 | 可変トルクリミッタアクチュエータの制御システム | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | | | 2017/06/20 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|------|-------------------------------|---|---|---------------|------------|
| 特許 | 1616 | 社会基盤 | MR流体を用いたバックドライバブルアクチュエータ | 次席研究員 理工学術院 理工学術院総合研究所 | 高応答・高出力・安全性が求められる次世代のロボットシステムには、予期しない外力の付与に対して迅速に応答可能な柔軟性を有する新たなアクチュエータが要請されている。本シーズは、応答時間の短縮化を図るとともに、比較的簡易な構成で柔軟性を発揮させることができるバックドライバブルアクチュエータを提供することにある。 | 特開2016-142320 | 2017/02/20 |
| 特許 | 1879 | 社会基盤 | 指先用の3軸力センサ | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | | | 2017/02/09 |
| 特許 | 1872 | 社会基盤 | 回転型コンプライアントアクチュエータ | 次席研究員 理工学術院 理工学術院総合研究所 | | | 2016/12/06 |
| 特許 | 1846 | 社会基盤 | ロボット用 マルチモーダルセンサ | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | | | 2016/09/07 |
| 特許 | 1805 | 社会基盤 | 山林内における路網自動生成及び施業計画作成に関するシステム | 客員教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | 等高線地図から、3D地図を作成し、そこに山林内情報を埋め込む。自然条件や作設（林業用の道の建設）条件、施業方法（林業の仕方）等から、作成した3Dに、路網を自動生成する。また生成した路網と山林内情報を可視化する。また、路網の自動生成とともに、コストを含む施業計画の提案がなされる。 | 2017-201936 | 2016/06/08 |
| 特許 | 1804 | 社会基盤 | 歯磨きロボット | 教授 理工学術院 | | | 2016/04/11 |
| 特許 | 1569 | 社会基盤 | 創造的人工脳 | 教授 理工学術院 基幹理工学部 | 従来型コンピュータは将棋チェスをするものや入試問題を解くものも含めてどれも、決められた仕事を早くこなすためのものであった。ヒトのようなアイデアを出せる人工知能を目指す第一歩として、ヒトの脳の神経細胞群の結合様式（空間パターン）を実験的に解明する研究が進められているが不明であった。そこで、化学反応論と分子生物学のデータを体系的に分析したところ、その解明ができた。 | 特開2016-24637 | 2016/03/18 |
| 特許 | 1551 | 社会基盤 | 金属き裂の自己治療方法 | 准教授 理工学術院 基幹理工学部 | 本技術は、金属を真空中で加熱すると、ある一定の温度で酸化被膜が消失することに着目し、き裂表面の酸化被膜が消失した状態で、急冷することにより材料内部に生じる熱圧縮応力を付与させて、き裂を閉口させる。 | 特開2016-16499 | 2016/03/18 |
| 特許 | 1556 | 社会基盤 | 半側空間無視の注意再獲得支援システム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 半側空間無視患者に対するリハビリテーションを支援するためのシステムであり、訓練用画像内の一部領域のみを視認可能にするスリット領域を移動、拡大させるように訓練者に提示することで、訓練者の訓練用画像に対する注意部分を移動させる。これにより、訓練者は、「固定」、「解放」、「移動」の各能力を増進させることが可能になる。 | 特開2015-221185 | 2016/01/06 |
| 特許 | 1552 | 社会基盤 | 静的ストレッチングの評価システム | 教授（当時） 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | 筋を伸張しながら所定の身体部分を一定姿勢で維持する場合に、当該身体部分の筋部位について、応力緩和の影響を除外し、筋粘弾性の継時的変化のみから、筋部位の継時的な状態変化を検出するシステムである。 | 特開2015-221122 | 2016/01/06 |
| 研究 | 2015-1215-07 | 社会基盤 | 「音楽」による人間とロボットの交流 | 教授 理工学術院 | ◆楽器演奏ロボットには共演者との意思疎通能力が必要(Fig.2) ◆言語以外の方法での意思疎通が必要◆マルチセンサ：多種の情報リアルタイムに同時取得(Fig.3) | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-06 | 社会基盤 | 「笑い」による人間とロボットの交流 | 教授 理工学術院 | ◆笑いのリアルタイム計測システム(Fig.2)◆ウェアラブル：非侵襲かつポータブル◆マルチセンサ：運動および生理的变化を計測 | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-05 | 社会基盤 | 高齢者のバランス能力評価のための装着型センサ | 教授 理工学術院 | ◆慣性測定ユニット(IMU)により動きを計測(Fig.1)◆成人を対象とした片足立ち試験(Fig.2)◆片足立ち試験の自動分析(Fig.3)◆歩行異常の自動認識(Fig.4) | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-04 | 社会基盤 | 潜在意識に働きかける内視鏡訓練システムの開発 | 教授 理工学術院 | ◆実験環境と設備 (fig.1) ◆異なるフィードバック (fig.2) ◆最初の訓練試行と最後の訓練試行の姿勢の差 (fig.3) ◆訓練中の作業負荷 (fig.4) | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-03 | 社会基盤 | 可変剛性関節を備えたロボットアーム | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | ◆柔軟性を調整可能なアクチュエーター◆プログラミングの容易性◆7自由度のロボットアーム、リーチは1m、可搬重量は5kg | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-02 | 社会基盤 | ロボットアーム、ハンド用の小型力覚・トルクセンサ | 准教授 理工学術院 大学院創造理工学研究科 | ◆新たな静電容量型6軸力覚・トルクセンサ◆分散触覚センシング用の新たな3軸力覚センサ | | 2015/12/15 |
| 研究 | 2015-1215-01 | 社会基盤 | 遠隔妊婦健診向け超音波検査支援ロボット | 教授 理工学術院 創造理工学部 | ◆【オンライン健診】リアルタイムで医師が遠隔から超音波画像、妊婦映像を見ながらTenangを操作・診断◆【オフライン健診】Tenangの自動走査で予め超音波画像を取得・伝送、産科医が再構築システムを用いて診断 | | 2015/12/15 |
| 特許 | 1761 | 社会基盤 | ロボット制御装置 | 教授（当時） 理工学術院 創造理工学部 総合機械工学科 | | | 2015/12/10 |
| 特許 | 1749 | 社会基盤 | 血液濾過器の流れの可視化試験装置 | 教授 理工学術院 大学院先進理工学研究科 共同先端生命医科学専攻 | | | 2015/11/05 |

| 種別 | シーズ番号 | 分野 | タイトル | 研究者 | シーズ概要 | 特許番号等 | 掲載日 |
|----|--------------|---------------------|-------------------------------------|----------------------------------|---|---------------|------------|
| 特許 | 1488 | 社会基盤 | 分散設置型インタラクティブ運動支援システム | 教授 理工学術院 創造理工学部 | 参加者の運動を運動中に評価し、適切さについてのフィードバックを複数の画像などの感覚情報として与えることにより、参加者が運動の不適切さに気づき、自身で適切な運動を形作っていけるように誘引するシステム | 特開2015-100458 | 2015/07/10 |
| 特許 | 110 | 社会基盤 ものづくり 技術 | 木質改質剤 | 客員教授(当時) | 木材本来の長所は生かし、寸法の狂い、吸水性、燃えやすさ等の欠点を改質する薬剤です。 | 第3992899号 | 2014/06/12 |
| 特許 | 204 | 社会基盤 | デジタルカメラを用いる寸法、形状の計測方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用物理学科 | デジタルカメラを用いた画像計測で、撮影データから建物の角などの計測点を抽出し、その座標値にレンズの歪曲収差補正を施し、寸法、形状を測定する方法。 | 第3668653号 | 2013/12/25 |
| 特許 | 203 | 社会基盤 | 歪曲収差の補正方法 | 教授 理工学術院 先進理工学部 応用物理学科 | デジタルカメラを用いた画像計測で、撮影レンズによる歪曲収差を補正し、高精度の形状計測を可能にする方法。 | 第3668654号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2011-0929-01 | 社会基盤 | インドにおけるイスラーム建築史からみる震災復興とリビングヘリテージ保全 | 研究院(研究機関) イスラーム地域研究 機構 | インド・グジャラート州カッチ地方ムンドラ県パドレシュワルの地図作成(平板測量)と宗教・カースト制によるコミュニティ分類、インド洋交易で栄えた時代の建造物遺産に関するの知見を持つ。震災復興支援においては、リビングヘリテージ保護・その他建造物保護のための住民教育やインド都市開発企業との連携活動も実施しており、インド・イスラーム圏における人的ネットワークを有する。 | | 2011/09/29 |
| 研究 | 2011-0921-01 | 社会基盤 | 中国東北地方の人口・社会変動 | 非常勤講師 社会科学総合学術院 社会科学部 | 中国東北地方に住む朝鮮族においては、中国内における民族としての競争力強化のため、特に独自の教育に力を入れている。例えば、延辺大学では朝鮮語・漢語に加えて日本語教育にも熱心であり、日本の大学への留学・就職率は高い。このため、朝鮮族の教育レベルの高さはもとより、親日性が特徴のひとつである。今後の発展が期待される中国東北地方の情勢を、主に民族的教育と社会への適応の変遷についての観点から、情報を提供できる。 | | 2011/09/21 |
| 研究 | 2011-0907-02 | 社会基盤 | アニメーション制作ワークフローの科学的分析と長期的人材育成 | 准教授(当時) 付属機関・学校 高等研究所 | 企業毎のアニメ制作工程におけるワークフローをエスノグラフィ分析により詳細に分析した結果を基に、個々の作業プロセスをシミュレーションにより再現することが可能。このモデルを基に、効率性と長期的なアニメ・コンテンツ制作人材育成の観点から業務分担のアドバイスが可能。 | | 2011/09/07 |
| 研究 | 2011-0907-01 | 社会基盤 | 研究開発における産学・企業間アライアンスの定量的評価・探索手法 | 准教授(当時) 付属機関・学校 高等研究所 | 特許データと論文データという客観的データを用いて、組織の境界を越えた知識共創(コラボレーション)が、研究開発能力の向上に与える影響を分析できる。分析結果を通じ、与えられた課題に最も適した「コーディネーター」を選ぶことで、コーディネーターの持つネットワークを活用して最小限の時間・労力・経費で異業種ネットワークを構築できる可能性がある。 | | 2011/09/07 |
| 研究 | 2011-0906-04 | 社会基盤 | グリーンメーカー・グリーンコンシューマーを育てる指標づくり | 教授 社会科学総合学術院 社会科学部 | 企業の環境配慮活動がもたらす環境影響評価を幅広い視点から評価するために産業連関分析の手法を応用する。また、消費者行動や、企業自身の行動を相対的に評価・分析するために、家計調査、工業統計調査など、社会統計を用いた計量経済学的手法を応用する。 それによって、消費者の満足度(効用指標)、企業の生産コスト、環境影響(ある製品の生産によるLCA的CO2排出)等を同時に考えたとき、 1. ペットボトル飲料は冷蔵販売するか常温品を販売するか 2. 公共交通利用を促進するかカーシェアリングを進めるか 3. エコハウスに建て替えるか既存住宅を改修するか 4. レストランを利用するか家庭調理食を便利にするか(そのとき中食(惣菜、レトルト食品等)の役割は?) 5. エコ商品を値引きするかポイントを付与するか(そのときポイントの用途は(環境配慮型用途に限定か)?) といった二者択一の難しい問題に対して、社会全体としてCO2排出を押し下げていけるようにするには、どうすればよいか、そのために企業はどのような情報発信をするべきかを考察する。 | | 2011/09/06 |
| 研究 | 2015-0303-08 | フロンティア ナノ・材料 | 極短電子線パルス発生装置 | 准教授 付属機関・学校 高等研究所 | ・高品質・極短電子線パルスを電子銃単体にて発生・高周波加速による小型かつ超高圧電子線の実現 | | 2015/03/03 |
| 特許 | 1077 | フロンティア | 光陰極高周波電子銃、および光陰極高周波電子銃を備えた電子線装置 | 准教授 理工学術院 先進理工学部 応用物理学科 | 現状の光陰極高周波電子銃(RF-Gun)の構造に新たに電子ビーム幅を圧縮するための空洞を設け、加速位相を調整させるようにしたもの。電子ビームの時間幅を圧縮できるバンチング効果があり、超短パルスの電子ビームが生成できる。 | 第5544598号 | 2013/12/25 |
| 研究 | 2012-0928-02 | フロンティア | テラヘルツ領域における高分子の誘電特性解明 | 教授 理工学術院 先進理工学部 | 当研究室においては、誘電体を研究対象として、その電気的性質、光学的性質を調べている。対象としている誘電体の種類は以下のものである。 ・ポリマー研究、電子デバイス研究、応用光学研究 ・原子力・加速器応用研究 | | 2012/09/28 |

お問い合わせ先

早稲田大学 産学官研究推進センター
TEL : 03-5286-9867 FAX : 03-5286-8374
E-mail : contact-tlo@list.waseda.jp
URL : <https://www.waseda.jp/top/research/tlo>